

## 個店を繋ぐ！地域を繋ぐ！ ちの×すわ まちゼミ

### 取組に至る背景・事業の目的

商店がお客様を対象にした講座を開くことでコミュニケーションを図る「まちゼミ」は、商業振興や地域活性化の手段として有効であるが、これまでは岡谷・下諏訪・諏訪・茅野の各地域で個別開催していたため、市外からの参加者が少なく、「まちゼミ」による効果が市内だけに留まってしまうという課題を抱えていた。

新規顧客がお店を訪れるきっかけを作ることが「まちゼミ」の目的であるため、現状の市内のみという範囲のままでは、いずれ頭打ちになってしまうことが懸念されていた。

諏訪地域は人々の行き来も多く、商店が一層活力のある経営をしていくためには、市場を大きく捉え近隣地域へのPRをし、商圏の拡大、市外への進出をすることが必要となっていた。

### 事業内容

#### ○「まちゼミ」の開催

春開催 平成 27 年 6 月 1 日～ 6 月 30 日

秋開催 平成 27 年 11 月 8 日～ 12 月 6 日

#### ○合同開催の実施

茅野市と諏訪市で合同のまちゼミを開催した。春の開催では、茅野市単独の開催であったが、準備を茅野市と諏訪市合同で行い、諏訪市でまちゼミを開催している方に、茅野市で行われるまちゼミに参加をしてもらうなど、連携体制の強化を図った。

秋の合同開催では同一期間でまちゼミを開催し、チラシも共通のものを作成し、両市に全戸配布を行った。



【まちゼミの様子】

### 事業効果

○秋の合同開催では両市合算で 58 事業所が 67 講座を開催した。参加人数も 941 名となり、お店を知ってもらいきっかけになったほか、街の賑わい創出ができた。

○これまで周知することが難しかった、市外への宣伝広告が出来たことで、新たに市外からの参加者を増やすことができた。また、フリーペーパーを使ったチラシの全戸配布により、30 代から 50 代の参加者層を、より拡大することができた。

○ひとくちにまちゼミといっても、細かな実施方法は両市でも異なる部分があった。そのため準備段階から両市の実施方法を共有・検討することで、より効率的な形でまちゼミを実施できた。

○合同開催により、今まで繋がりの無かった商店同士が交流を持つことができた。「まちゼミ」という事業を通じて今後の連携に向けた新たなつながりを作ることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

まずは諏訪地域の商業振興策としてまちゼミを定着させることを目指し、継続して開催をしていく。その中でも、参加された方にお店のファンになってもらえるようにしていくことは課題の一つである。講座の中でどれだけ参加者とコミュニケーションを取り、信頼関係を作ることができるか。そのための方法など講座内容をブラッシュアップしていくような取り組みも今後は行っていきたい。

#### 【選定のポイント】

他市町村との合同開催により、参加店同士の交流、新規顧客の獲得など地域商業の活性化が期待される。

団体名 茅野商工会議所（茅野市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0266-72-2800	事業費	2, 325, 763円
ホームページ <a href="http://www.chinocci.or.jp">http://www.chinocci.or.jp</a>	支援金額	1, 744, 000円

## 地域密着型コミュニティライフサポートシステムの構築と運用

### 取組に至る背景・事業の目的

人口減少と高齢化が進行している社会状況において、今後、ますます増加する高齢者（独居）を取り巻く深刻な社会問題（孤独死や買物難民等）を防ぐセーフティネットが求められていた。そこでICT活用などにより地域商業の活性化を目指して、諏訪地域で活動するNPO法人維新塾のこれまでの経験を活かし、高齢者が暮らし慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを目的として、地域密着型のサポートシステム【商人堂（あきんどう）ライフサポート】の構築とその運用を始めることとした。

### 事業内容

○生活支援と見守りを目的として、四つのサポートサービスを主に岡谷地域で提供

- ・商人堂パック：委託配置販売形式で日用品や食料等を利用者宅に配置して、使用した分の料金を後で一括精算するサービスを提供する。
- ・商人堂便：定期的又はスポット的に巡回して、商人堂パックの精算・補充とともに買物代行等のサービスを行う。
- ・商人堂コンシェルジュ：地域の店舗又は会社（維新塾・商人堂加盟店）の紹介や提供するサービスの案内・斡旋を行う。
- ・商人堂見守り：安全・環境をサーベランスシステムとライフサポートセンターとでモニタリングして緊急時の通報を受け付ける。



【商人堂ライフサポートシステム図】

### 事業効果

- 平成24年から岡谷地域で実施している日用品の委託配置販売は、現在約20軒が利用しており、食料品を含めた商人堂パックを買物弱者のセーフティネットとして提供することができた。商人堂便や商人堂コンシェルジュによる他の生活支援サービスを加えて更なる利便性を図ることができた。
- 既存の緊急通報システムや警備会社の見守りサービスでは緊急ボタン等を押さない限り基本的に機能しないが、利用者の安否や生活環境を各種センサーでモニタリングして注意や警報をタイムリーに表示・発信する（サーベランスシステム）とともにライフサポートセンターを介して緊急時の通報や対応を地域の包括ケアと連携して行うことで、効果をより高めることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 支援サービスが必要な高齢者を広く取り込むには行政や福祉との連携が不可欠であるが、サービスが多岐に渡るため、全体的な連携が課題となっている。
- 国が提唱する『生活支援コーディネータ』と基本的に同じコンセプトを持ち、地域と連携するプラットフォームとして既に運用を始めている本システムと地域行政や福祉との包括的な連携ができれば効率的で効果的な運用が期待される。

#### 【選定のポイント】

医療、福祉、商業などの異業種間の連携が進むことにより、高齢者が安心して暮らせる環境づくりが期待される。

団体名：特定非営利活動法人 維新塾（岡谷市） 連絡先：0266-24-1419（中島秀明） ホームページ <a href="http://www.akindou.net/ishinjyuku/">http://www.akindou.net/ishinjyuku/</a> メールアドレス honbu@akindou.net	事業タイプ ソフト事業 事業費 5,793,097円 支援金額 4,344,000円
---	--

## 中学生の思いを形に！宮田村イメージキャラクター事業

### 取組に至る背景・事業の目的

村内の中学生が総合学習の時間を活用して、村の魅力や特産物、誇るべきものなどを調査し、それをもとにPRキャラクターを考案した。次世代を担う子どもたちが考案したPRキャラクターを核としたむらづくり事業を行うことで、地域全体で子どもを育て、多くの住民の手で新しいむらづくりを創造する機運づくりを図った。

### 事業内容

- 中学生が考案したPRキャラクターを核とする、新しいむらづくり事業として、ワークショップによるイメージキャラクターや情報発信のためのグッズの制作をした。
- 地域の子どもたちとの交流の機会を作り、地域のつながりを構築するためにあいさつ運動や職場体験事業等キャラクターの制作にとどまらず、地域での交流活動を実施した。
- PRキャラクターの名称を公募し、宮田村村政60周年イベントでお披露目をした。



【発表会の様子】

### 事業効果

- ・「みやだボンドプロジェクト」は様々な団体で構成され、活動をしているため、多種多様な人材が参画した宮田村のPRが可能であり、PRキャラクターを通じて、新たな“つながり”が生まれた。
- ・ワークショップの開催により、多くの地域住民の参画のもと中学生の思いや夢を実現できた。また、宮田中学校の卒業生にも声を掛け、地域全体でキャラクター制作に携わることで愛着のあるキャラクターとなった。
- ・あいさつ運動や地域でのイベント、その他村外・県外でのPR活動での活用など、キャラクターを核にした新たなむらづくり活動の創出ができた。
- ・中学生と地域の大人とのコラボレーションを通し地域で子どもを育てる風土の醸成ができた。
- ・子どもたちが地域の大人と一緒に「ふるさと宮田村」を考え学ぶ“郷育”の効果、宮田村の活性化と元気づくりの効果が見られた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・制作したキャラクターを活用し、宮田村のPRとして各イベントでの広報活動を実施。
- ・小中学校での行事の際にキャラクターを活用する。
- ・あいさつ運動の際にキャラクターと一緒に活動をする。

#### 【選定のポイント】

宮田村の中学生の発案を契機に中高校生や住民協働によるワークショップで村のイメージキャラクターを制作した。また、中学生が修学旅行先で村のPRを行い、子どもたちが宮田村を学ぶ「郷育」や地域の活性化に寄与した。

団体名	みやだボンドプロジェクト（宮田村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	宮田村役場みらい創造課 0265-85-3181	事業費	1,386,000円
メールアドレス	kikaku@vill.miyada.nagano.jp	支援金額	931,000円

## 菱田春草生誕地公園の維持管理・活用の拠点整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

菱田春草生誕地の周辺は、昭和22年の飯田の大火での焼失を免れており、旧飯田町の歴史・文化・景観を体感できるエリアである。地区では、国登録有形文化財に指定されている旧飯田測候所、下伊那教育会館などをつないで地域の魅力を高める「まるごと博物館事業」に取り組んでいる。平成26年度に「菱田春草生誕地公園」が整備されたことを契機に、公園周辺に地域の案内や菱田春草の紹介ができる公園の維持管理の拠点を整備することとなった。

拠点施設の整備にあたっては、地域住民等で組織する空き家活用のプロジェクトチームが中心となり、近隣の空き家の借用、片づけ、整備を行った。全国的に課題となっている空き家の活用について、地域でできることを地域で取り組むモデル的ケースでもある。

### 事業内容

#### ○空き家の整備

- ・平成27年4月に地域住民で空き家の片づけを実施後、改修工事等を行い、9月上旬に完了。
- ・飯田OIDE長姫高等学校建築科の3年生有志に内装のデザインを依頼し、地域住民と協力して改装作業を実施した。

#### ○拠点施設の活用

- ・菱田春草生誕地公園開園記念イベント 参加者90名
- ・下伊那農業高等学校アグリ科のイベント 来場者約100名
- ・「橋北再発見ウォーキング」における高校生運営の休憩所 利用者70名
- ・その他、コミュニティ施設として会議や公園の維持管理作業後の休憩等で活用

#### ○名称募集

- ・約半月間、名称の公募を実施。43点の中から投票により「寄り合い処“春草の郷”」に決定。



【高校生によるデザインの説明の様子】

### 事業効果

菱田春草生誕地公園の近くに施設を整備したことにより、今後の公園の維持管理・活動の拠点として利用できるようになった。併せて、増加している空き家の活用による地域活性化に寄与した。

また、高校生に内装のデザインを依頼し、住民との共同で改装作業を行ったことで、住民と高校生との交流ができ、地域での関心も高まった。高校生と協働してのイベントも開催することができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・菱田春草の顕彰のため、パネル展示やパンフレット設置をし、案内人の育成にもつなげる。
- ・高校生の活動の場（試食会、農産物販売、作品発表展示）としての活用も進める。
- ・地域での交流活動の拠点として、会合やイベントに使用する。

#### 【選定のポイント】

地域住民のみならず高校生の参画も得ながら空き家を改修し、拠点整備を実施した。整備した施設は、地域コミュニティの拠点の役割を果たしており、空き家活用のモデル事業でもある。

団体名	春草公園を愛する会（飯田市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0265-22-4521	事業費	2,020,680円
メールアドレス	kyouhoku@gmail.com	支援金額	1,327,000円

## 祭り文化と伝統食から学ぶ“和食”の魅力発信事業

### 取組に至る背景・事業の目的

平成 25 年からの 3 か年計画で、「食と祭りの融合 祭り街道弁当」の試作に取り組んできた。この「祭り街道弁当」は南信州にある伝統芸能を四季に分類し、それぞれの祈りのテーマを各弁当に反映させ、併せて祭りそのものも楽しむことができる、他に類を見ないものである。3 年目となる平成 27 年度は、情報発信の年として、南信州と銀座 NAGANO において「祭り街道弁当」を通じて南信州の魅力を発信した。

### 事業内容

- 祭り街道弁当フェア in 銀座 NAGANO/in 新野千石平
  - ・国重要無形民俗文化財に指定されている「新野の雪まつり」をテーマにした「はつはる」弁当を披露。
  - ・併せて「新野の雪まつり」の映像（銀座 NAGANO）や実演（新野千石平）の鑑賞とその解説を聞くことで、日本古来の祭りと食に託された“思い”を理解していただくとともに、南信州の伝統文化に、改めて関心を持っていただいた。
- 料理教室
  - ・地域内での認知度を高めるため、当事業の趣旨に賛同をいただいている料理研究家の指導のもと、「夏と秋の祭り街道弁当」をテーマに料理教室を開催。
- 「学ぶ・体験する・交流する」講座
  - ・一般の方を対象に、文化講座（「薬草の効能・採取方法・用い方」「新野の雪まつりの楽しみ方」等）を計 4 回開催し、南信州の魅力を学習した。



【祭り街道弁当フェア in 新野千石平】

### 事業効果

銀座 NAGANO で祭り弁当フェアを開催することで、首都圏の方に、南信州の伝統芸能と伝統食を PR することができた。また、「はつはる」弁当についての参加者アンケートでは高い評価を得た。阿南高等学校の郷土芸能同好会に祭りの演舞団体として参加してもらったことで、圏域内に住んでいながらも「新野の雪まつり」を見たことがないという方も、関心をもって参加していただけた。また、学芸員による解説により、祭りや食の秘された意味を改めて認識していただけた。銀座 NAGANO や道の駅等の情報発信拠点でイベントを実施したことにより、南信州地域に存在する地域の文化や食といったものに興味を持っていただき、当地域来訪への契機になったのではないかと考える。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

南信州の食文化、祭り文化の認知度を高めていくために、「祭り街道弁当」の制作を進めてきた。今後は、作成した「祭り街道弁当」を、どのように提供することが南信州ブランドの構築により望ましいか、検討を進めていきたい。圏域内には、情報発信拠点多くあるため、様々な人や団体と連携を取り、弁当提供店の開拓や祭り街道弁当フェアの継続開催などを図っていきたい。

#### 【選定のポイント】

伝統芸能と食をセットで地域文化として発信する取組であり、地域に伝わる貴重な伝統芸能に対する理解を深めるとともに、首都圏での情報発信と三遠南信地域の交流が図られた。

団体名	南信州交流の輪（飯田市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-22-4511 （事務局：飯田市企画課）	事業費	516,464円
		支援金額	387,000円

## 「来て！観て！感じて！」伝統芸能の継承と担い手の育成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

江戸時代より伝わる7年に1度の大祭「飯田お練りまつり」の開催を控え、観光誘客だけでなく、地元を離れている人へ里帰りの好機と捉え、積極的な情報発信を行う。

また、若者流出により、地域の祭事の開催に苦勞する実情があり、当地域に伝わる伝統芸能に興味を持ってもらう機会とする。

### 事業内容

#### ○来て！事業

- ・飯田コアカレッジの生徒等にデザインを依頼し、ポスター、チラシ、パンフレットを作成。
- ・初めて高速バス（6台）にラッピングを行い、広範囲へPR。
- ・首都圏（銀座 NAGANO）や中京圏（ハイウェイオアシス）でのPR。

#### ○観て！事業

- ・GPS 位置情報システムにより、移動する出演団体の現在地をリアルタイムで表示し、来場者の利便性を向上。



【銀座 NAGANO での PR（大名行列の披露）】

#### ○感じて！事業

- ・祭りの情報発信場として、約2か月間、「お練りサロン」を開設し、祭りの紹介や、獅子頭の展示、お練りグッズの販売を行った。
- ・銀座 NAGANO で「東野大獅子」の獅子頭や宇天王を展示し「大名行列」の演技と「大名行列」を披露するとともに、大名行列の道具に触れてもらう機会を設けた。

### 事業効果

祭り期間中の来場者数がのべ35万人（前回比10%増）にのぼり、多くの来場者があった。

また、今回から導入したGPS位置情報システムには、約5万9千件のアクセスがあり、移動しながら演舞する出演団体を探しやすくなったと好評を博した。

銀座 NAGANO のイベントでは、祭りの勇壮さや芸能の華麗さ、誇りをアピールするとともに、道具に触れる事の出来る体験を通して、祭りや伝統芸能への関心を高めることが出来た。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

次回の「飯田お練りまつり」でも演舞してもらえるように、今回の出演団体との繋がりを大切にしながら、機会があるごとに積極的にPRしていく。

多くの団体は日頃より地域の神社等への奉納の機会があり、人目に付きやすい。引き続き各関係機関と連携し、団体の出演機会を創出し、後継者育成への支援をしていきたい。

また、商工会議所のホームページで当日の様子をアップし、引き続き情報を発信する事で、この祭りが次回の来飯のきっかけとなるように工夫する。

#### 【選定のポイント】

GPS 位置情報システムの開発により来場者の利便性向上を図るとともに、若者を巻き込んだ積極的な広報展開の実施により出演団体数、来場者数が過去最高となった。

団体名	飯田商工会議所（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0265-24-1234	事業費	6,450,670円
ホームページ	<a href="http://www.iidacci.or.jp/">http://www.iidacci.or.jp/</a>	支援金額	4,848,000円

## 入山辺地区地域づくり推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

松本市入山辺地区は、人口 2,100 人ほどの集落で、美ヶ原高原へ向かう県道松本和田線沿いの山間地域にある。住民の約 4 割が 65 歳以上という市内でも高齢化の進んでいる地域であり、人口も減少傾向にある。

このような地域課題を解決するべく、平成 23 年 11 月に住民主体で「入山辺地区の将来ビジョンを考える会（愛称：こんな山辺にするじゃん会）」を立ち上げ、入山辺地区の 20 年、30 年後の将来を見据え、「住んでみたい、訪れてみたい入山辺」を念頭に、住民相互の絆を強めた地域づくりを推進する。

### 事業内容

- 1 地域課題の把握や将来の研究を行うために、松本大学の白戸教授を講師に招き、毎月 1 回学習会を開催
- 2 本会を母体に、地区内外の若者が中心となり、若者が活躍できる場や入山辺の今後について考える「goen の会」が発足し、毎月 1 回程度集会を開催
- 3 地区の主要道路沿いに、景観整備のため植樹を実施
- 4 前年に植樹したハナモモ周辺の草刈り作業の実施
- 5 食農振興及び子ども達を含めた地域住民の交流のため、もち米・蕎麦の栽培の実施
- 6 観光振興、災害時等に役立てるため、地区名を記載した看板を製作・設置。印刷以外をすべて住民の手作業によって製作・設置を行った。



【南方地区の看板】

### 事業効果

- 定期的に学習会を重ねて地域課題を把握することで、参加する住民の意識が高まっている。
- 集落案内看板の作成や遊休農地を活用したもち米栽培等に継続して取り組んだ結果、住民同士が交流する機会が増え、地域のつながりや一体感を強めることができた。
- 平成 27 年度には本会を母体とした「goen の会」が発足し、地区内外の若者とともに入山辺地区の将来を考える機会を新たに作る事ができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

学習会を継続して行い、地域課題を把握するとともに具体的な活動に取り組んでいく。主な事業としては、地区内のウォーキングコースへの藤棚の設置や一般参加型イベント（田んぼのわプロジェクト、蕎麦の栽培）の開催等を予定。また、goen の会による地区内外の若者を取り込んだイベントを開催し、地区の PR や活性化を進めていく。

今後も「住みたい、訪れてみたい入山辺」を念頭に、魅力あふれる地域づくりを着実に進めていく。

#### 【選定のポイント】

住民の手作りによる活動が継続的に活発に行われており、4 年間の事業実施を通して住民同士の交流が促進されている。また同会を母体として地域内外の若者により「goen の会」が新たに発足するなど、他の地域等へも波及効果が期待できる。

団体名	入山辺地区の将来ビジョンを考える会 (松本市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-32-1389	事業費	421,420円
		支援金額	316,000円

## 佐久地域かかりつけ医ハンドブック作成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

佐久地域は長寿で知られる医療先進地域である。将来も健康長寿であるために、日頃から気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つためのアドバイスや医療機関の情報などを掲載した「佐久地域かかりつけ医ハンドブック」を作成する。ハンドブックは、地域住民にとって有益で健康増進に繋がる情報冊子とする。

### 事業内容

- 「かかりつけ医ハンドブック」の作成
  - ・佐久医師会に所属する全医療機関（73カ所）の情報を掲載。
  - ・佐久地域において「かかりつけ医」を探すためのアドバイスや医療事情などを掲載。
  - ・健診や予防接種を受ける際の注意点など行政機関からの情報を掲載。
- 各自治体に協力いただき、佐久市及び南佐久郡町村へ全戸配布した。



【冊子「かかりつけ医ハンドブック」】

### 事業効果

「かかりつけ医」を持つ意義を解りやすく説明し、個々の医療機関の基本的な情報や、医療の特徴を示すことができた。適正な医療の選択をすることで医療の効率化と患者の負担を減らすきっかけとなった。高齢化社会が進む中で、患者や家族が知っておきたい基礎知識を提供することで、これからの地域医療のあり方を考えるきっかけとなった。

健康への関心を高めるため、本冊子は地域住民にとって有益な情報源となった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回の冊子を「かかりつけ医」を探していただくきっかけとするだけでなく、高齢社会が進む中で健康寿命を延ばし、地域医療のあり方を考え直すきっかけにしていきたい。

患者が自分に合った医療選択をすることで、医療の効率化をはかり、医療、保健、福祉の充実に力を尽くしていきたい。

**【選定のポイント】**  
住民が自分に合った医療機関を選択・探索する手助けとなり、医療、保健、福祉の充実に繋がるものとなった。

団体名	一般社団法人佐久医師会（佐久市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0267-62-0442	事業費	3,780,000円
メールアドレス	sakuishi@seagreen.ocn.ne.jp	支援金額	2,835,000円

## 第10回宮川どんぐりフェスタ開催事業

### 取組に至る背景・事業の目的

茅野市宮川地区は、小中学校を境に東西に通学区が広がるため、地域内での子どもたち同士の交流が分断される傾向にあり、また、未就学幼児から小学生、中学生までの学年を越えた交流も減少傾向にあった。

このため、十数年前から地区内の子どもたちが一堂に会して交流を深める場としての“子どもまつり”宮川どんぐりフェスタを開催してきた。

事業主体の宮川地区コミュニティ運営協議会子育て部会は、子ども会育成会・小中学校教職員及びPTA・保育園職員及び保護者会、子育てに関連する団体等で構成されており、事業の企画から準備・運営まで様々な場面で相互に協力する事で、地区全体で子どもたちの健全な成長を見守る機運を高める機会にもなっている。

### 事業内容

例年は、地区内にある茅野市公民館の体育館を会場に実施しているが、第10回の記念開催として、倍以上の広さである長峰中学校体育館を会場に、平成27年11月15日(日)開催。

運営を中学生スタッフを中心となり実施し、子ども達が遊ぶ・体験する等のブースや、宮川小学校合唱団、長峰中学校吹奏楽部、市内高校生によるダンス等、子どもの発表の場を提供した。

今回は、企画段階から中学生が参加し、“未就学幼児から中学生までみんなを楽しませる”こと目標に、子ども目線で企画を考え実施した。また、告知用チラシ・ポスターの原画も中学生が作成した。

例年200人程度の参加者であるが、今回は500人以上の参加があった。



【中学生スタッフの感想発表の様子】

### 事業効果

- 過去の宮川どんぐりフェスタは、大人が企画していたが、近年は、出来るだけ子ども自身が開催に関われるよう工夫している。特に今回は、企画段階から中学生が参加し、子ども目線で企画を考えることで参加意欲が高まった。
- これまでのどんぐりフェスタは、中学生の参加が少なかったが、会場を中学校体育館にしたことや、自分たちで企画したことによって、自分たち自身も楽しめる内容となったため中学生の参加が多かった。また、年下の子どもたちを楽しませたことで、思いやりの心の育成や、年齢・学年を越えた交流が図られた。
- 企画等の中心は子どもたち自身だが、茅野市リーダーズクラブの高校生、宮川地区コミュニティ運営協議会子育て部会員等地域全体で開催をサポートしたことにより、子育て関連団体相互の協力関係の構築及び強化を図ることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 具体的な子どもたちの考えを引き出す事は、大変困難であったが、ともに作り上げる経験は、大人・子どもともに非常に貴重な体験となった。
- 規模を拡大した事によって、多くの住民に当事業を知ってもらう機会となった。今後も世代を越えて子どもが交流を深める場を提供するとともに、地域全体で子どもを育てる環境を整備し、その活動が活発になるよう、多くの住民が興味関心を持ち参加する事業として継続し開催していきたい。
- 予想以上の来場者であり、子どもたちの原体験の場として有益であるが、体験や提供の経費を主催者が全て賄うのではなく、参加者が負担する方法を検討する必要がある。

#### 【選定のポイント】

企画運営への関与、年齢・学年を越えた交流を深めることにより、子どもたちの自主性の向上、思いやりの心の育成が期待される。

団体名 宮川地区コミュニティ運営協議会 (茅野市) 連絡先 0266-71-1602 メールアドレス miyagawa.bo@city.chino.lg.jp	事業タイプ ソフト事業 事業費 594,782円 支援金額 369,000円
--	--

## 障がいがあってもだれでも生活し働いて学ぶ地域の学校づくり

### 取組に至る背景・事業の目的

養護学校を卒業して就職したものの、仕事が合わなくて悩んだり、職場の人間関係につまずいたりして、数年で離職する人が増えていた。中には、引きこもったり、心の病にかかったりするなど深刻な場合もあり、その背景にはさまざまな社会問題があった。

この事業は、そのような卒業生たちが、働く意欲を失わず体力をつけて再就職するために、富士見町の畑を借りて地元の特産物を栽培したり、拠点を作って学ぶ場所を用意したりして、就労支援・相談支援を行うことを目的とした。

このような地域の活動が、若者や障がい者の社会参加とその人たちを支える地域の活性化につながると考えた。

### 事業内容

○障がいのある人々による特産物の栽培、料理・縫製教室、展覧会、コンサートなどを実施。

・富士見町の特産物、えごま・ルバーブなどの栽培、草取り、収穫。

4月～11月。えごまの選別は冬場が中心。

・絵画の展覧会。11月1日～11月29日。

・地元音楽家のコンサート。11月8日。約100名参加。

・料理教室。餅つき会。1月9日。そば打ち2月6日。

計21名参加。

・木工教室。8月1日、8月29日、2回開催。10名参加。

・縫製教室。10月10日、10月24日。2回開催。

計9名参加。

・支援金で購入したミシン・そば打ちセット・蒸し器などを利用して、さまざまな教室を開催でき有意義であった。



【そば打ち教室の様子】

### 事業効果

○支援金を活用し、料理教室や縫製教室などを開催して、障がいのある人々と地域住民との交流ができた。交流を通して地域住民の障がいに対する理解や意識が高まった。

○この活動が地域の関心を呼び、高齢者や地域住民のボランティア参加が増え、地域活性化の一助となった。

○障がいのある若者の雇用促進と就労支援に取り組み、離職者が再就職できた。前年比50%増。

○障がいのある人々を支援し、活動に参加しようというボランティアが増加した。前年比30%増。

○障がいのある人々を就労体験や職場実習で受け入れる事業所や場所が増えた。

○地域住民が普段から活動拠点に立ち寄り、ボランティアとして活動に参加し、継続的に支えてくださり、大変ありがたいことである。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○障がい者と地域住民との交流をどのようにしたらいいか考え、地域の方に特産物の栽培を教えていただきながら一緒に畑で汗を流す活動、料理教室、餅つき会、コンサート、絵画展などで触れ合う活動を取り入れた。

○障がいのある人の雇用は、なかなか難しく、職場実習先や就職先を見つけることに苦労したが、これまでの活動を通して知り合った企業より、採用の話をいただいて嬉しかった。

○活動拠点の建物を維持管理していくことが、資金的課題として残されている。

### 【選定のポイント】

障がい者と地域住民がともに活動する場を作ることで、障がい者が地域で暮らす環境づくりが期待される。

団体名	八ヶ岳南の学校（富士見町）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-64-2933	事業費	1,143,048円
メールアドレス	minaminogakkou93@outlook.jp	支援金額	876,000円

## 高齢者向け地域支え合い事業

### 取組に至る背景・事業の目的

支援を必要とする軽度の高齢者が増加することで、地域において高齢者の日常的な支え合い活動を行うことが重要となっている。また、高齢者自身の介護予防が求められている中、社会参加や社会的役割を持つことが、生きがいや介護予防につながる。

そのため、高齢者が交流するシルバーカフェにおいて高齢者自身の「働き場」や「活躍場」の提供などを通して、介護予防に取り組む。

### 事業内容

- 1 高齢者の健康な心づくり体づくりの推進  
シルバーカフェ応援企業、地域ボランティア及びカフェ利用者による高齢者支援・生活充実講座（裁縫、音楽、絵画、パソコン、英会話）の開催
- 2 高齢者の生活充実を目的としたフォーラム（高齢者の健康づくりも推進できる専門家の講演会や協力企業のブース展示、各種相談会）の開催
- 3 地域包括ケア予防医学・介護活動として、認知症に効果的と言われる「大人の塗り絵」を取り上げ、カフェ利用者を対象とした大人の塗り絵教室を開催。あわせて医療機関と連携しその効果の把握を行う。



【カフェ利用者とスタッフ】

### 事業効果

- 地域企業や地域在住の高齢者（現役世代も含む）に講師としてのボランティア参加を促し、多くの地域住民に参画いただき、地域リーダーを養成することができた。
- 開設後 550 名の登録をいただくなど、多くの方に利用いただいている。一人暮らしの高齢者には、「気兼ねなく立ち寄れる場所ができてうれしい」といったコメントもいただく。高齢者の生活充実のニーズを調べイベントを行うことで、心と体の健康増進に貢献できた。（登録者数前年度比 80%増加）
- 新たにシルバーカフェ諏訪店、茅野店を開設することができ、各地域で高齢者の方々が安心して楽しく、お互いに支え合う仲間づくりのお手伝いが出来ている。（松本店、塩尻店に続き合計 4 店舗）

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「公助の限界」や「医療・介護費の増大」に対応するため、国では「共助の推進～地域支え合い体制づくり～」を進めている。しかしそのモデルとなる様々な仕組みを自治体で模索中である。その一翼をシルバーカフェが担い、多くの自治体からの見学や視察・調査に来ていただいている。

カフェに対する公的支援も必要と考えるが、ともに共助の仕組みを作っていくことが肝要。現時点では、国・県・基礎自治体で取組に差がある。今後も、市民から作られる仕組みが主導して、行政、地域経済団体や地域企業と連携し、高齢者を支える支え合い体制づくり（カフェ運営）を進めていきたい。

#### 【選定のポイント】

高齢者が講師となり各種教室を開催し、年間の利用者数が増加する等高齢者が気兼ねなく立ち寄ることができ、認知症の方やその家族の交流・情報交換の場所として定着している。今後もカフェのイベント等地域の方に協力いただき、地域で支え合う体制の一層の強化を期待したい。

団体名	シルバーカフェ（松本市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-87-7816	事業費	2, 216, 549円
ホームページ	<a href="http://www.silvercafe.jp/">http://www.silvercafe.jp/</a>	支援金額	1, 587, 000円

## 村民の生活を支援する配食&買い物支援事業

### 取組に至る背景・事業の目的

平成 27 年度から介護保険制度が大きく改正され、病院・施設の生活から在宅中心への生活へと移行される中で、在宅で生活のできる環境整備・支援体制を早急に作り上げることが必要となっている。小谷村では、認知症での介護認定が 1 位となっており、在宅で認知症の方を支えていくシステムづくりを検討している。小谷村が目指す地域包括ケアシステムの構築に向け、民間ができる生活支援を行い、在宅生活の継続につなげていく必要があると考え、高齢者向けの配食サービス及び買い物支援サービスを行った。

### 事業内容

- 配食サービス
  - ・ 村の配食サービスのない平日週 3 回の昼・夜に配食サービスを提供し、食事面での健康管理を行った。
  - ・ 高齢者の集いの場への配食弁当サービス・配達車両の改装
- 買い物支援サービス
- C A T V や音声告知放送・チラシ配布による配食・買い物サービスの周知



【配達に使用している軽ワゴン車】

### 事業効果

- 村の配食がない平日週 3 日に行うことで、平日すべてでサービスの提供が可能となったほか、小谷村が行う配食サービスの対象者以外でも配食サービスが受けられた。
- 高齢者の集いの場への配食数増加に力を入れ、他者と食事を摂ることで、引きこもり予防や生きがいにつなげることができた。
  - ・ 配食数 450 食 (H26 年度) → 1,554 食 (平成 27 年度)
- 買い物へ行く手段が限られた状況にある中で、村民が希望する商品を届けることにより、自宅での生活を継続していけるように支援することができた。また、配達時には安否確認も行い、消費者被害にあっていないか等の声掛けを行った。
- 買い物支援サービスを行う職員 1 名 (新卒者) を新規雇用した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 行政や社会福祉協議会等と情報共有し、在宅での生活が可能となる高齢者支援を今後も行っていきたい。
- 食品営業許可を取得したことから、高齢者等のみではなく、一般の方への生活習慣病の予防につながるよう、行政と連携をとりながら、配食サービスを行っていきたい。

#### 【選定のポイント】

配食サービスを、村の配食がない平日 (週 3 日) に行うことで、平日すべてでサービスの提供を可能にするとともに、買い物支援は J A 等の移動購買車が行かない地区でのサービスの提供を行った。行政や民間サービスの隙間を埋める取組で、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるためのモデルとなる事業である。

団体名	特定非営利活動法人 安心生活支援ごごみ (小谷村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-82-2853	事業費	444,369円
		支援金額	355,000円

## 訪問型子育て支援事業

### 取組に至る背景・事業の目的

核家族化、地域社会の希薄化等が進んでいる現在、子育てをしている家庭には、子育てへの不安や悩みを誰にも相談できずにストレスを抱え、愛着障害などの問題も生じている。特に、子育て広場やマタニティセミナー等に出て来られない子育て家庭への支援が課題となっている。

そこで、子育てに関する不安や悩みを一人で抱え込まないよう、地域のボランティアが家庭訪問をし、親の話に耳を傾けながら、育児や家事を一緒に行い、孤独感や孤立感の軽減、コミュニケーションや育児スキルの向上、親の自信の回復などを支援しながら、子育ての楽しさを実感し地域とつながるきっかけをつくる。

### 事業内容

子育て広場等に出てこられない親子、身近に子育ての不安や悩みを話せる人がいない家庭等に、研修を受けた地域の子育て経験者である子育て支援ボランティアが訪問する「ホームスタート」を用いて子育て支援を行った。

訪問活動は、週に1回、2時間程度、定期的に行い、親の話に耳を傾けながら（傾聴）、育児や家事を一緒に行った。

訪問活動と並行して、家庭訪問を行うボランティアを対象に、活動のフォローアップ、傾聴スキルの向上等を目指し、講座、事例検討会等も行った。



【訪問活動】

### 事業効果

利用者の多くは子育ての中で孤立を感じていたが、訪問終了後のモニタリング調査の結果では、親の孤立感の解消－充足度 100%、親自身の心の安定－90%、子どもの心の健康－94%などとなっており、孤立感の軽減、親の自信の回復、子育ての楽しさを実感することにつながったといえる。

子育て経験のある地域のボランティアが、対等な関係で傾聴を行うことは、親を元気にし、問題の深刻化を防ぐとともに、地域とつながるきっかけともなった。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

訪問型子育て支援事業について、長野市保育・幼稚園課等に活動の成果を提示しながら、平成28年度のこども広場じゃん・けん・ぼん（長野市の指定管理受託）事業への導入を要望したところ、長野市が行う「妊娠出産包括支援事業」と連携を図り、継続して実施されていくこととなった。

#### 【選定のポイント】

地域で子育てを行う意識の醸成が図られるとともに、孤立感を感じていた利用者が孤立感の解消・軽減を感じているなど、親の心の安定と子育て意欲の向上につながった。平成28年度は市において予算化され、市の事業として実施されるなど、事業効果に広がりが見られる。

団体名 特定非営利活動法人ながのこどもの城 いきいきプロジェクト（長野市） 連絡先 026-225-5467 ホームページ <a href="http://www.na-kodomo.com/">http://www.na-kodomo.com/</a>	事業タイプ ソフト事業 事業費 2,086,198円 支援金額 567,000円
--	--

## 伝統文化と青少年育成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

長和町伝統文化育成会は、地域に根ざした和太鼓の伝統の継承と演奏活動を通じた地域コミュニティの醸成、青少年の健全育成を理念として、和太鼓演奏に限らず地域内の多様な伝統文化を伝承する人たちと交流しながら、事業を実施してきた。

平成 27 年度事業は、「青少年がグローバルな視点を養うフィールドとして伝統文化がある」ということを知ってもらい、自分たちの持つ伝統文化を地域に留めるだけでなく、新しい視点から現代に相応しい伝統文化に育てていくことを目指して事業を実施した。

### 事業内容

#### ● 地域交流和太鼓演奏会

地域交流和太鼓演奏会として「第 19 回ながと不動太鼓演奏会」を開催した。小学生から社会人までのメンバーが 14 曲を演奏し、日頃の厳しい練習の成果を披露した。

また、会場では長和町の特産品の試食、販売を実施するとともに、観光 P R も行った。

開催日：平成 27 年 8 月 2 日（日）  
場 所：上田市 丸子セレスホール  
来場者数：約 550 名



【第 19 回和太鼓演奏会】

#### ● 地域交流親睦会

地域で舞踊、歌謡等の文化活動に取り組んでいる団体との文化交流会を開催した。各々の伝統文化の生い立ちや違いなどを学び、親睦を深めた。

開催日：平成 27 年 11 月 15 日（日）  
場 所：長門町民センター集会ホール  
来場者数：約 80 名

### 事業効果

和太鼓演奏会では、多くの方々に来場いただき、迫力のある演奏と技で高い評価をいただいた。会場内で実施した長和町の特産品の販売等も大変好評で、地域の活性化につなげることができた。

また、文化交流会では、異なる伝統文化を理解し、認め合う場をつくることができた。

伝統文化を継承し育てていく活動の中で、児童生徒が自らを律することを学ぶとともに、伝統文化育成会として、伝統文化を多くの人たちと共有する環境をつくるのが、伝統文化への理解と参画の推進につながるものと考えている。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も和太鼓の演奏を通じて青少年の健全育成を図り、地域の活性化に取り組むとともに、引き続き地域の伝統文化活動で活躍しているグループとの親睦を推進していきたい。来年は和太鼓演奏会 20 周年なので、演奏会を町の一大イベントにしたいと思う。

また、新たな取組みとして、障がいを持つ子どもたちへの感覚統合治療「スノーブレン」に協力し、和太鼓を和のスノーブレンとして役立てることができればと思っている。

#### 【選定のポイント】

和太鼓の演奏を通して青少年の育成を図るとともに、伝統文化を地域に広く紹介し、文化交流の場を創出する等、地域の文化活動の発展に寄与した。また、長和町の魅力発信にも貢献した。

団体名	長和町伝統文化育成会（長和町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	小県郡長和町和田 1866-8	事業費	1, 499, 918円
		支援金額	1, 121, 000円

## 槻木の廻り舞台を活用した地域活性化事業

### 取組に至る背景・事業の目的

当地区には、江戸時代に建築された芝居の舞台があり、昭和30年代後半までは伝統行事の中として、地元の青年団による「柳川劇団」がこの舞台で踊りなどの芸能を披露し、地域の交流や絆を深めてきた。当時の青年団の方々も、高齢になり地域芸能文化が途絶えることが危惧されていたことから、実行力のある組織づくりと、舞台づくりを通し若い世代の地域愛を醸成するため、子どもたちを中心に地域の活動グループや若者たちが芸能祭の中核となるよう育てていくこととした。

### 事業内容

#### ○槻木の廻り舞台演劇再建事業

##### ・泉野のテーマソングづくり

泉野小学校児童会主導で泉野をテーマとした歌が作られた。歌詞には、地域の皆さんからフレーズを募集し、唐澤史比古先生に作詞作曲を依頼した。歌詞には地域の風景などを盛り込み、メロディも地域にあった爽やかな曲を作り、CDを制作した。

##### ・泉野地区芸能祭 子どもたちと地域の連携 槻木の廻り舞台「秋の会」の開催

泉野小学校児童会・槻木区・泉野地区コミュニティ運営協議会が共催し、地域の皆さんと一緒に楽しめる手作りの舞台を企画した。

##### ・槻木区地域活性化委員会の立ち上げ

柳川劇団OB・公民館活動グループ・地域の芸能団体・小学校ボランティア・泉野地区コミュニティ運営協議会の皆さんで、協力して運営する組織づくりを進めた。



【秋の会 小学校6年生】

### 事業効果

#### ○泉野のテーマソングづくり「すべてのいのちが」

作られた歌を、槻木の廻り舞台「秋の会」で発表をした。また、小学校の「ようこそ先生」「泉野地区ふるさとまつり」での発表のため、唐澤史比古先生から、子どもたちと地域の皆さんを対象に合唱指導していただいた。

#### ○泉野地区芸能祭 槻木の廻り舞台「秋の会」

泉野子ども木遣りを皮切りに、日本舞踊、太鼓、東部中吹奏楽部、泉野小学校6年生の演劇、保育園児、地域の皆さん10団体による出し物など盛りだくさんの舞台を作ることができた。

当日(10月10日土曜日)は、地域の皆さん約300人に江戸時代に造られた迫力のある舞台(間口7間、奥行5間)での発表を見に来ていただいた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

泉野のテーマソング「すべてのいのちが」を、小学校行事や地域のイベントなどで幅広く歌われるよう展開する。芸能祭を子どもたちと地域の皆さんが連携し開催したことにより、地域の絆づくりにとても役に立つ事業ができた。今後も、学校と地域の皆さんとの連携を図ることや、文化交流の場として取り組みを継続するため、ボランティア等地域の協力者を増やしていく。

#### 【選定のポイント】

地域住民の共有財産を拠点として小学生から高齢者までが参画する活動が行われたことにより、世代間交流の促進、郷土愛の醸成、伝統文化の伝承が期待される。

団体名	茅野市 泉野 槻木区	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	茅野市泉野地区コミュニティセンター 0266-70-1606	事業費	816,332円
メールアドレス	izumino@city.chino.lg.jp	支援金額	593,000円

## キッズタウンいなん2015

### 取組に至る背景・事業の目的

キャリア教育が社会的に広がりつつあるなか、地域ぐるみで子どものキャリア教育を行うことが重要とされ、伊南地域（駒ヶ根市・飯島町・中川村・宮田村）においても今後その機運が波及して行くことが予想される。

未来を担う子どもたちが、自発的・積極的に一つの仕事をやり遂げる達成感を味わい、働くことへの意欲・関心を育むことで、地域を活性化させる人材の育成を図った。

### 事業内容

- ・企業による出展ブースで小学生の職業体験を実施した。仕事をすると仮想通貨を得られ、その仮想通貨を物品や飲食などに使った。
- ・小学校5～6年生を対象に、119人の参加があった。
- ・24社の企業・団体の参加があった。
- ・実施された体験職業は、警察官（指紋採取）、消防士（人命救助）、自動車整備、距離測量、建設業（重機操作、塗装、電気工事）、看護師、パティシエ、バーテンダー、メイクアップアーティスト、ネイルアート、コンピューター操作、イラストレーター、カメラ撮影、レポーター、映像編集、スポーツボディメンテナンス、フラワーアレンジメント、スイーツデコレーション、ピアノの先生など



【体験中の様子】

### 事業効果

- ・参加した子どもたちは、仕事を途中で諦めずに最後まで行うことで、やり遂げたという自信に繋がった。
- ・より多くの体験をしようと積極的に行動したこと、体験を途中であきらめず最後までやり遂げたこと、それぞれのブースで目に見える成果を実感したことなどから、子どもたちの積極的な姿勢を育むことができた。
- ・参加者対象のアンケートで、全員から「また参加したい」という回答を得た。
- ・多くの企業・団体の参加があり、地域全体で子どもたちを育てるという機運の醸成につながった

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・会場を拡大し、より多くの子どもたちに社会体験の場を提供していきたい。
- ・多くの企業・団体に声かけをし、活動にご協力をいただき、地域の子どもは地域で育てるという意識をまち全体で共有したい。
- ・青年会議所が主催ではなく、地域の企業・団体・住民が主体的に行っていけるような仕組みづくりを行いたい。
- ・ホームページやSNSなどの媒体を活用し、事業の内容や様子、風景などをPRしていきたい。

### 【選定のポイント】

地域企業と連携して小学生向け職業体験を開催し、子ども達の職業に対する関心や、意欲を育んだ。実施後のアンケートで参加者全員が「また参加したい」と回答するなど、事業効果の高い取組みとなった。子どもの地元企業や職業についての学びと地域愛の醸成に寄与し、将来の伊南地域を担う人材の育成が図られた。

団体名：(一社) 駒ヶ根青年会議所	事業タイプ	ソフト事業
連絡先：0265-83-5475	事業費	937,742円
ホームページ <a href="http://komaganejc.org/">http://komaganejc.org/</a>	支援金額	631,000円

## 遠山の霜月祭早わかり瓦版作成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

飯田市上村・南信濃からなる遠山郷には、国指定重要無形民族文化財に指定されている「遠山の霜月祭」という湯立神楽が伝承されている。この霜月祭は両地区合わせて10の神社で行われているが、それぞれの神社で祭りがどのように行われているか知る者は少ない。

そこで、それぞれの神社ごとに瓦版（小冊子）を作成し、他社の祭りへの理解を深める。また、高齢化や人口減少等により、祭りの継承の危機にあることから、特に小中学生を中心に祭りの意味等を学んでもらい、後継者育成に役立てる。

さらに、近年では外国人観光客が増加傾向にあることから、外国人に対する祭りへの理解促進や誘客に取り組むため、英語版の瓦版も併せて作成する。

### 事業内容

○遠山の霜月祭ガイドの作成

- ・遠山郷の10社で行われている「遠山の霜月祭」を紹介する冊子（9種類）と全社分まとまった小冊子を作成した。
- ・作成にあたっては、飯田美術博物館、霜月祭各保存会や地域住民（氏子）に執筆、内容確認等を依頼し、多くの人に作成に関わってもらった。
- ・今後、増加が予想される外国人旅行者への対応をふまえ、英語版の小冊子（1種類）の作成を行った。



【作成したパンフレット】

○遠山の霜月祭 特設サイト（ホームページ）の作成

- ・増加する見学者への祭りの理解促進や見学時の心得を伝えるため、スマートフォンにも対応した特設サイトを開設。
- ・併せて、外国人観光客向けの英語版のページも作成した。

特設サイト <http://shimotsukimatsuri.com/>

### 事業効果

全10社（9種類）の様式の違いが分かる冊子を作成の上、全社を網羅した小冊子ができあがった。作成の過程で、遠山の霜月祭に関して様々な意見があがり、改めて祭りについて議論する機会となった。

12月の霜月祭開催中に先行して完成した6社分の冊子の配布・活用を行い、観客や氏子等に好評だった。

霜月祭には例年どおり多くの観光客が訪れた。外国人客も訪れ、年々増加傾向にあることを確認した。英語版のガイドは、平成28年の霜月祭からしっかり活用していきたい。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

遠山郷霜月祭の特設サイトと合わせて、霜月祭伝承への貢献、観客の祭りへの理解促進、外国人客の誘客に取り組んでいく。

本格的な英語パンフレットは当地域では初めての試みであり、これを足掛かりとして今後一般的な観光情報の英語対応に取り組んでいく。

#### 【選定のポイント】

パンフレット・ホームページ作成により、各神社で異なる祭りの内容や面の構成等について理解の促進を図った。また、英語版も作成し、外国人観光客に向けた積極的な情報発信を行った。

団体名 遠山郷観光協会（飯田市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0260-34-1071	事業費	3, 111, 696円
ホームページ <a href="http://www.tohyamago.com/">http://www.tohyamago.com/</a>	支援金額	2, 332, 000円

## 伝統芸能伝承するための後継者育成活動

### 取組に至る背景・事業の目的

300余年の歴史を持つ7年に1度の大祭「飯田お練りまつり」の獅子舞である「東野大獅子」は東野6町の有志により保存会を形成し、獅子舞を引き継いできたが、会員の高齢化と若年層の減少により、後継者不足が顕著となり、将来の保存も危ぶまれてきた。

そこで、これまでのお練りまつりの都度、成人の新会員を募るといった会員確保の方法と並行して、将来後継者となる子どもたちに、小さい頃から興味を持ってもらうための活動を行うこととした。

### 事業内容

○主に東野6町の小中高校生を対象とした後継者育成活動

- ・獅子舞の練習見学（1回）
- ・大獅子の頭と宇天王の面の展示（2日間）
- ・幌作成現場の見学（1回）
- ・屋台作成の手伝いと見学（4回）
- ・歴史の勉強会（1回）
- ・獅子舞体験（丸山小学校3年生課外授業、6回）
- ・獅子舞の練習（38日間）
- ・お練り祭り当日（4日間）



【丸山小学校での獅子舞体験】

上記の活動に、延べ577名の子どもたちが参加し、後継者育成に取り組んだ。

### 事業効果

本事業により、東野大獅子に強く興味をもった小学生5名が、每晚実施する練習に参加した。

また、お練り祭り当日にも屋台とともに4日間練り歩き、後継者育成に繋がった。

さらに、丸山小学校3年生の課外授業で、東野大獅子の舞やお囃子を教えた。児童からいただいた感想文には、将来東野大獅子の保存会に入り、獅子舞を行いたいという思いが多くつづられており、興味や親しみを持ってもらうことが出来た。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回は、7年に1度の大祭「飯田お練りまつり」の開催年に併せて、地域住民の協力を得ながら、子どもたちが参加しやすいように多くの見学又は学習の機会を設けて本事業を実施した。今後、単発の事業とせず、年2回の幌等の虫干し作業時に、子どもたちを招待するなど、継続的に事業を実施していく。

また、小学校や中学校と連携し、若い世代に伝統芸能である東野大獅子への親近感と伝統を継承する意識を醸成していけるよう取り組んでいく。

なお、お練り祭り終了後も丸山小学校6年生に4回獅子舞の体験学習を実施した。

#### 【選定のポイント】

地域の伝統芸能の継承が課題となる中、勉強会や体験等を通じて今後後継者となる地域の子どもの継承に対する意識の醸成が図られた。

団体名 東野大獅子保存会（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
メールアドレス	事業費	2,207,652円
suwatyoujitikai@gmail.com	支援金額	1,478,000円

## 笹賀おしどり桜の育成と保守管理事業

### 取組に至る背景・事業の目的

毎年、大阪の春の風物詩として、「桜の通り抜け」が開催されている。平成 26 年 4 月、松本市笹賀地区で生まれた品種「笹賀鴛鴦（おしどり）桜」が、そこに植樹されたことが話題となり、この桜を地区の宝として守り育てていこうという声が地域で上がるようになった。

このため、この桜を守り育てていくとともに、地域の人々への周知や次代を担う子どもたちへ伝承していくための活動をはじめた。

### 事業内容

- 1 地区名が学名に付された笹賀鴛鴦桜を子供から大人まで多くの人たちに知ってもらうために絵本を作成し、学校等への配布・一般販売等により広報活動を行う。
- 2 笹賀地区内の笹賀鴛鴦桜 22 本の保守管理を行う。
- 3 地元の小学校の総合時間に笹賀鴛鴦桜の挿し木の実習を行うことによる桜の増殖及び子どもたちへの伝承を行う。また将来的に一か所に集中して植え、笹賀の宝、笹賀の名所をつくる。



【笹賀おしどり桜の絵本】

### 事業効果

- 笹賀地区文化祭で絵本の販売及び活動内容展示を行い地区内への認知度向上の効果があつた。絵本は新聞やテレビ等のメディアにも取り上げられ、認知度が上り、地区内外からの注文が入るなど絵本 500 冊が完売（学校等への無償配布 200 冊を含む）した。
- 笹賀地区内の笹賀鴛鴦桜 22 本のうち、成木 10 本で剪定を実習し、今後の保守管理に必要な剪定方法を学ぶことができた。幼木は樹木医の診断を受け、現状維持としている。
- 地元の小学校 2 校（二子小学校、菅野小学校）で挿し木の実習を行うことで、次代を担う子どもたちに笹賀鴛鴦桜の伝承を行うとともに、植物を育てることを通して優しさや思いやりの心の育成ができた。また守る会会員が挿し木、接ぎ木した約 70 本の苗は、現在里親が育成中。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地区名が学名に付されたこの桜を笹賀地区の宝として位置付け、市地域づくりセンター及び笹賀町会連合会と連携を強め、協働して桜を守っていききたい。

子どもたちへの伝承及び増殖の手段として、小学校での挿し木実習を今後も継続して行っていく。また挿し木の発根率があまり良くなかったため、今後も樹木医の指導を受け増殖を行う。

挿し木した苗を一か所に集中して植樹・育成を行う場所の確保が必要となるため、行政等と協力し、植樹場所の確保に努めていく。

#### 【選定のポイント】

地域の資源である笹賀鴛鴦桜を将来へ守り育てるため、桜の来歴を物語にした絵本による広報や小学校での挿し木の実習等の活動を実施し、地域の内外に「笹賀鴛鴦桜」の名を広めることができた。今後も桜を守り育てる活動として息の長い取組としていただきたい。

団体名 笹賀おしどり桜守る会（松本市） 連絡先 0263-57-2328	事業タイプ ソフト事業 事業費 1, 108, 465円 支援金額 826, 000円
---	---

## 祭 in 大町・北安曇 2015—Again (ふたたび)

### 取組に至る背景・事業の目的

平成2年の第1回公演「祭 in 大町'90—山と神と人と」から約10年間活動した後、15年間活動を休止していた。その間、厳しい経済状況や東日本大震災の発生など時代が大きく変化する中で、未来を切り開く鍵は「文化」であると再認識し、今回、大町市文化会館30周年記念事業として、埋もれていく文化資源を掘り起こしながら、文化として再認識・再評価を促すとともにその継承を図り、文化による地域づくり・人づくりに資することを目的として創作舞台の制作・上演を行った。

### 事業内容

- 平成27年11月8日(日)大町市文化会館において大北地域各地の民俗芸能の創作舞台を制作・上演
- 獅子舞や太鼓によるウェルカムパフォーマンス
- 過去の活動実績をパネルにまとめ、大北地域4会場で巡回展示
- 制作・上演の記録映像、写真集の作成



【カーテンコール】

### 事業効果

- 大北各地から約1,000人の来場者があり、アンケートでも多くの方から賞賛の声をいただき、多くの人に地域文化の素晴らしさを伝えることができた。
- 大北5市町村一円から総勢300人を超えるスタッフ・出演者が参加し、広域的なつながりを築くきっかけにもなった。
- 大北各地の子どもたちが幾度も練習を重ねて合同太鼓演奏を行い、チームの垣根を越えた貴重な体験ができた。また、その指導には若手後継者があたり、リーダー育成の機会にもなった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 「土着の文化」「広域的取組」という独自のスタンスを守りながら、地域に根ざした活動を続けていきたい。
- 1998年長野冬季オリンピックでは白馬会場開会式公演を実現させたことから、2020年東京オリンピックにおける文化プログラムのひとつとして、当地域から発信する文化事業を制作することを目指している。

#### 【選定のポイント】

地域住民である公演の出演者・スタッフらが自らの発想で企画、参加したことで地域に根ざした芸術・文化の振興につながった。大北地域一体となったイベントは、県内各地にも伝承芸能のすばらしさを知らしめ、後継者の意欲向上にもつながった。

団体名	祭 in 大町・北安曇 2015 実行委員会 (大町市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-22-9988 (大町市文化会館)	事業費	2,380,086円
		支援金額	1,560,000円

## 区長会・育成会と協働した高齢者交通事故防止事業

### 取組に至る背景・事業の目的

平成 26 年中に小諸市で発生した交通死亡事故 3 件すべてが高齢者がらみであり、県下でも依然として高齢者が関係する交通事故は高止まり傾向にある。また、交通事故死者の半数が高齢者であったことから、安全・安心な地域づくりを達成するためには、高齢者対策を強力に推進していく必要があり、①交通安全に対する住民の意識付けの普及、②高齢者の交通安全思想の定着、③夕暮れ時から夜間の交通事故防止 を目標として取り組みを行った。

### 事業内容

#### ○夜間の高齢者に対する交通安全教室

区長会・高齢者クラブ連合会・各安協支部に依頼して受講者を募り、春の全国交通安全運動及び夏の交通安全やまびこ運動期間中に 3 回実施。延べ 418 人受講

#### ○楽しみながら学べる交通安全教室

NPO 法人交通教育とらふいっく Sisters のミュージカル形式による交通教育や、協会女性部による寸劇など楽しみながら学べる交通安全教室を年 8 回開催。延べ 814 人受講

#### ○高齢者宅家庭訪問

高齢者事故防止モデル地区を重点に季別の安全運動期間中に、区の役員・小学児童が参加して高齢者宅を訪問した。訪問高齢者数延べ 755 人。

○薄暮時から夜間にかけての視認性が高く、歩行者事故防止にきわめて効果的であるヨコミエ LED ライトと交通安全リーフレットを上記交通安全教室、家庭訪問時に配付した。



【高齢者宅家庭訪問】

### 事業効果

小諸市における平成 27 年中の高齢者の交通事故件数は 49 件であり、前年比 2 件の減少であった。

区長をはじめ地域住民の交通安全意識の普及が図られ、また、交通安全教室や家庭訪問を通して、高齢者の交通安全思想が定着された。

年間交通死亡事故ゼロ記録を達成し、現在記録更新中。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

高齢者の交通事故防止は、高齢化社会の進展に伴ってさらに必要性が高まるものと思われる。

高齢者宅家庭訪問においては小学児童の協力を得たことで、高齢者とのスキンシップにつながったことと、子どもと高齢者双方に交通安全意識の向上が見られたことから、今後も小中学生の協力を得ながら活動を継続させたい。

更なる交通安全意識の普及を図るため、引き続いて高齢者宅家庭訪問、夜間の交通安全教室、寸劇を交えた交通安全教室等の高齢者交通安全活動を活発に実施したい。

#### 【選定のポイント】

事業によって交通安全思想の一層の定着につながった。小諸市では現在 800 日を越える交通死亡事故ゼロ記録を継続しており、本事業の効果が現れている。

団体名	小諸交通安全協会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0267-23-5525	事業費	589,360円
		支援金額	442,000円

## だれもが参加したくなる心に響く安心安全イベント

### 取組に至る背景・事業の目的

平成 26 年度に県内で交通事故が約 9,300 件発生した。交通死亡事故では、高齢者の方の犠牲者が多いが、幼い子どもも犠牲者となっており、未来の大切なかけがえのないのちが奪われている。また、平成 26 年度の県内特殊詐欺の被害額は 10 億円以上となっており、深刻な問題となっている。

これらの交通事故及び特殊詐欺の被害を防ぐため、「だれもが参加したくなる心に響く安心安全イベント」を通して、一人ひとりの交通安全意識の高揚、詐欺被害防止の啓発を行う。

### 事業内容

- 1 交通安全意識の高揚等を目的とした「心に残り実践できる」交通安全・特殊詐欺防止ミュージカルの開催
- 2 小中高等学校を中心にスケアードストレイト（事故再現）の交通安全教室の実施（小学校で実施しているのは全国でも交通教育とらふいっく Sisters のみ）
- 3 自転車の安全利用のため、多くの中学生・高校生が身に着けたいと思うような効果的な自発式反射材（LEDライト）の開発



【特殊詐欺防止ミュージカルの様子】



【スケアードストレイト交通安全教室】

### 事業効果

- 交通安全・特殊詐欺防止ミュージカルは、受講した園児、児童、高齢者に「楽しくわかりやすい」と評価され、交通安全・防犯対策として効果があった。また地区の交通安全指導員や防犯委員と合同で実施し連携を強めることができた。（開催回数 22 回、受講者数 2,940 名）
- スケアードストレイト教室を通して、小中高校の児童、生徒に交通事故の怖さを実感してもらうとともに、交通ルールを守ることの大切さを理解してもらい、交通安全意識を高揚させることができた。（開催回数 20 回、受講者数 7,220 名）
- 学生等の意見を取り入れ、身に付けやすく効果的な LED ライトの開発ができた。この LED ライトの普及により自転車通学の生徒の交通安全確保に資することが期待できる。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地域、世代を越え「一人ひとりがいのちを守る」という目標のもとに事業を実施しており、今後ものちの大切さをわかっていただけのように身近な事例なども取り入れ、効果的な手法で交通安全・防犯教室を展開していく。また、活動を継続させるため、引き続き自治体、学校、保育園、高齢者施設等と連携を図り、安全安心なまちづくりに取り組む。

#### 【選定のポイント】

「誰でも楽しく、わかりやすい、心に残る・響く交通安全啓発ミュージカル」として地域の市町村や小学校等からの開催要望も多い。受講者は、子どもから高齢者まで幅広く、今までにない交通安全教室として好評で、住民の交通安全意識の高揚につながっている。また行政や地域の交通指導員、学校等と連携して事業を展開し、安全安心なまちづくりに大きく寄与している。

団体名	特定非営利活動法人 交通教育とらふいっく Sisters (塩尻市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0263-31-5747	事業費	2,307,156円
ホームページ	<a href="http://traffic-sisters.shiojiri.com/">http://traffic-sisters.shiojiri.com/</a>	支援金額	1,677,000円

## 湯田中区支え合い（防災）マップ作成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

平成 24 年に区として初めての防災訓練を行ったところ、災害発生時に機能する実質的なルールや組織、機能が消防団以外になく、区として対応できないことが明らかになった。住民意識を高めることと、災害発生時の避難ルールづくりが急務であると捉え、第一段階として支え合いのためのマップを作成し、地域防災力の向上を図る。

### 事業内容

#### 1. 事業の準備

区会での検討、関係機関（町、消防署等）との協議を経て、勉強会を実施した。また、区内への啓発と周知（組長会での了承、総会での説明チラシ配布等）を行った。

#### 2. 事業の実施

防災マップと支えあいマップの作成を並行して同時に進めた。

- ・ 13 組の総会での承認を得て、区内全戸に対し災害時支援希望者登録について周知、書類配布
- ・ 防災マップの内容の検討および関係機関と協議、内容の修正等
- ・ 支えあいマップ作成作業
- ・ 防災マップの印刷、配布



【支えあいマップ作成作業】

### 事業効果

- 区内各所にある危険箇所が従来の町の防災マップよりも具体的で分かりやすくなった。
- 各組ごとに避難場所を決めて周知した。災害時の避難が円滑に行われることを期待したい。
- 夜間瀬川の危険水位を明記し、避難の判断基準を明確にした。
- 支援希望者登録や支えあいマップの作成作業を通じて、地域内で助け合う意識を高めることができた。
- この活動を通して地区内の住民が防災について考えたり、活動したりする機会を提供できた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回作成した各組ごとの「支えあいマップ」と、全戸に配布した「湯田中区防災マップ」を基にして、実際に起こりうる災害を想定した防災・避難訓練等を実施し、避難所の運営等の訓練につなげ、住民の防災意識をさらに高める活動に役立てていきたい。

#### 【選定のポイント】

山ノ内町最大の行政区である湯田中区が地域防災力向上のため独自の防災マップを作成した。高齢者や、転入者にも分かりやすい内容とするため、地域住民が何度も協議を重ね、より具体的な避難ルールづくりを進めたことにより防災意識が高まると同時に、住民同士のコミュニケーションが深まり地域力が向上した。

団体名	湯田中区（山ノ内町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0269-33-2400	事業費	808,900円
メールアドレス	kyouekikai@bg.wakwak.com	支援金額	645,000円

## 災害時避難収容施設で災害体験とワークショップ（研修会）の開催

### 取組に至る背景・事業の目的

飯山市は千曲川と信濃川断層帯が市内の中心部を通る豪雪地帯であるが、古くから豪雪とともに千曲川の氾濫にも悩まされてきた。また、過去には大規模地震災害もあったが、人口減少と高齢化が進む状況下において災害体験や防災の知恵を継承する機会が少なく、災害に対する意識は高いとは言えない。

そこで、人口が減少し担い手が少ないからこそ、災害時は「お互い様」の精神で支え合う、効果的な対処法を学ぶワークショップ等を開催し、災害時の担い手の確保を図る。

### 事業内容

1. 防災キャンプの準備を兼ねた勉強会とワークショップを開催。
2. 災害時の対応についての知識を楽しく実践的に深め、いざというときの知恵と資源を共有し、連携する基盤をつくることを目的として防災キャンプを実施。避難所として利用されるであろう外様地区活性化センターにおいて1泊2日の宿泊体験をはじめとした楽しく実践的な訓練を行った。また、ゲームなどのチーム編成を多世代とすることで、知恵と体力のリミックスを行った。
3. ワークショップや防災キャンプで学んだことを「防災キャンプのすすめ」のリーフレットとしてまとめ、PTA、各地区活性化センター、消防団、などに配布した。



【避難所トイレを体験】

### 事業効果

苦しい、大変というイメージがある災害時の対応を、「楽しい」「面白い」という体験を通じて、災害ならびにその対応に興味をもつことができた。また、世代、立場、地域を越えた協力体制を実習したことにより、災害時における担い手の確保の最初の一步となった。さらに、被災体験や、地域の対応を学ぶことは経験の継承につなげることとなり、市内で初めての取り組みは新聞や市報で紹介された。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

飯山倶楽部会員は行政職員や学校関係者、消防関係者、商店街店主、主婦などさまざまな職業に従事している。その得意分野を活かす活動はまさに災害に役に立つものであり、今回の防災キャンプでもその効果を発揮した。中心となるメンバーは、中越地震や東日本大震災の被災地と交流があったことから、一時疎開避難受入を行うなど従前からの活動を行っていた。こうした活動を通じて、災害時における効果的な対処法を考えることが当地域に必要な取り組みであると考えていたことがきっかけとなった。

この活動を通じて、市民における防災に関する意識と災害時への備えに対する取り組みはまだ薄く、自分ごととして考えられない実情がわかった。今後、小学校の親子レクや各地区文化祭などにおいて、楽しく学べる防災教育の普及が必要ではないかと強く感じている。

当倶楽部は、防災に詳しい専門家の協力を得られることから、今後もこのような取り組みを続け、地域に根ざした防災教育の一助としていきたい。

#### 【選定のポイント】

災害時の対応を「楽しく」学ぶことで子どもたちに興味を持たせることができた。また、世代や地域、立場を越えたグループ体制により実践したことから、災害時に必要な体制を具体的に把握でき、交流も広がった。作成した防災キャンプリーフレットは飯山市内の小学校のほか公民館、育成会等に配布され、住民の防災意識の向上につながった。

団体名	飯山倶楽部	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0269-62-2162	事業費	453,459円
メールアドレス	eco@iiyama.ne.jp	支援金額	353,000円

## 神宮寺片山下斜面等周辺整備及びやまぶきの植樹事業

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪大社上社本宮と前宮を繋ぐ片山周辺の街道には北斗神社や様々な史跡があるが、街道沿いの里山は巨木となった樹木も多く危険な場所となっていた。

また、諏訪大社への参拝客は多いものの、この街道沿いを歩いて散策する観光客の姿は少なく、この変化に富んだ一帯を活かした環境整備を行うことにより、観光客の視線を少しでもこの街道へ向けさせていただき、より活気ある街として発展するきっかけとなればと考えた。

その一環として昨年に引き続き、神宮寺片山下斜面の整備と「やまぶき」の植樹により多くの観光客を迎え楽しめる場所として整備することとした。

### 事業内容

- 植樹箇所の整備（1回実施）
- やまぶきの植樹
  - 11/29 1,500本植樹
  - 地域住民など130人参加
  - 《整備》
    - 茅野市境傾斜地
    - （以前に植樹した箇所の雑草除去）
    - 片山上、植樹箇所
  - 《植樹》
    - やまぶき苗木 1,500本植樹
    - 植樹箇所
      - 茅野市境傾斜地
      - 片山上
      - 北斗神社下傾斜地



【やまぶき植樹の様子】

### 事業効果

○平成25年度からの整備事業を始める前に比べて、街道を歩いて周辺の景観を楽しむ観光客や地元住民の姿を多く見かけるようになってきた。3ヶ年計画による、傾斜地の整備、やまぶきの植栽も周知されてきており、少しずつではあるが、環境整備による効果が表れてきている。

○また、本事業への地元関心度も高くなり、整備、植栽参加者も当初の80人に比べ、約1.6倍の130人に増加するなど、まちづくりの気運を高めることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○著名な俳優の参加による除幕式や農産物等を販売するイベント「やまぶき街道朝市」の開催により、事業のPRを図った。

○やまぶきの植樹箇所が傾斜地のため、植樹する場所によっては、重機等を使った整備が必要になる。また、植樹後、やまぶき以外の草木の樹勢が強くなり、しっかりと根付くまで、数年は管理が必要となるが、植栽したやまぶきの手入れや草刈等を行い、さらに活気のある街道づくりを進めていく。

#### 【選定のポイント】

御柱祭・諏訪大社来訪者の満足度向上に加え、景観形成のための継続的な取組により、一層の観光誘客の促進が期待される。

団体名	やまぶき街道の会（茅野市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-58-6521	事業費	950,000円
メールアドレス	toshihiko-kasahara@city.suwa.lg.jp	支援金額	712,000円

## 奥志賀高原リンドウの丘整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

山ノ内町奥志賀高原地区はリゾート地であるとともに、町の飲料水・農業用水を賄う一級河川雑魚川の支流が流れ、古くから漁業関係者や農業関係者、観光関係者及び町が一体となって環境保全に努めている地域でもある。

自然環境に配慮しつつ、奥志賀高原に自生するリンドウや奥志賀溪谷を観光資源として、奥志賀高原の魅力を発信することを目的とする。

### 事業内容

1. 奥志賀溪谷トレッキングコースに標識・案内板を9基設置するとともに、遊歩道を整備した。
2. 奥志賀高原 花のフォト・スケッチコンテストを行い、応募作品をホームページにて公開した。
3. 奥志賀高原リンドウの丘PRパンフレットを作成、宿泊客等に配布した。
4. 山ノ内町立山ノ内中学校生徒を対象に夜間瀬かんがい排水路、剣沢ダム勉強会を3回に分けて実施した。



【奥志賀溪谷案内板設置】

### 事業効果

- トレッキングコースに案内板を設置したことによりお客様が迷わず散策できた。また、コース外への踏み込みを防ぐなど自然環境の保全にも役立った。
- 次世代を担う中学生に勉強会の場を提供したことにより、観光地全体の美化意識の向上が図られ、ユネスコスクール登録要件となる環境学習の一助とすることができた。
- 毎年パンフレットを配布してきたことにより、リンドウの丘を目的にされるお客様が定着しつつあり、また、新規のお客様の来訪も増え、閑散期の観光客の入込みが増えた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

これまでリンドウの丘整備と奥志賀溪谷トレッキングコースの充実を図ってきたが、さらに奥志賀高原のエリア全体として環境整備を進めていきたい。

奥志賀高原は開発当時から環境に配慮した運営を行ってきたが、ぜひ奥志賀に行ってみたいと感じさせる魅力づくりを継続して行っていく。

#### 【選定のポイント】

奥志賀溪谷を流れる雑魚川は周辺の飲料水・農業用水を賄っており、古くから地元観光関係者と漁協関係者等が一体となって環境保全に尽力している。地元中学生を対象にその歴史と現状を伝えたことは環境意識を高め、今後続く保全活動の一助となることが見込める。また、散策路も奥志賀常会が中心となり地域住民が丁寧な管理をしており、継続して整備してきたことにより観光客の入込が増加してきている。

団体名	奥志賀高原常会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0269-34-2225	事業費	1,170,492円
		支援金額	840,000円

## 信濃行きマス！呼ぼう 太公ぼう 食いしんぼう 立岩湖再生プロジェクト～ジャンプ～

### 取組に至る背景・事業の目的

南相木村にある立岩湖は、シナノユキマス※が成育するのに適した県内でも稀な釣り場である。村の観光スポットである『立岩湖』と新たな観光資源の題材として『シナノユキマス』を活用することにより、①観光地としての活性化（PR）、②村の特産品としてのシナノユキマスの知名度向上へとつなげるべく、平成25年度から平成27年度までの3カ年計画で事業展開をした。

※シナノユキマス・・・サケ科コレゴヌス属に分類される北欧・北米原産の冷水性の淡水魚。欧米では「ホワイトフィッシュ」と呼ばれ、体が銀白色に輝くことから長野県はこの魚に『シナノユキマス』の愛称を付けた。

### 事業内容

- (1) シンポジウム『信濃行きマス！呼ぼう 太公ぼう 食いしんぼう  
～シナノユキマスで南相木の未来を創る～』の開催

開催日：平成27年10月31日（土）

場 所：南相木村公民館

- 内 容：・ワークショップ『南相木村の活性化を考える』  
・料理教室『シナノユキマスの魅力を引き出した料理教室』  
・講演会『ぼくの学校は山と川』講師 矢口高雄氏  
・パネルディスカッション『シナノユキマスを活用した村の活性化を考える』  
・サイン会 他

- (2) 釣りキチ三平杯 立岩湖釣り大会

開催日：平成27年11月1日（日）

場 所：南相木村立岩湖

内 容：シナノユキマスを対象とした釣り大会を開催した。



【釣りキチ三平杯立岩湖釣り大会】

### 事業効果

釣り客に根強いファンを持つ矢口高雄先生を迎え、シンポジウムや講演会、釣り大会を開催したところ、遠くは岡山県からの参加者もあり、全国的なPRへと繋がった。矢口先生の代表作である『釣りキチ三平』を活用し、未だ知名度の低い『シナノユキマス』釣りに特化した新たな観光客の誘致ができた。

『釣りキチ三平杯立岩湖釣り大会』の開催により、立岩湖のPRや『シナノユキマス』に興味を持つきっかけづくりができ、釣りを一つの売りとした南相木村ならではの取組へつなげることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

過去2年間に取り組んだ事業や経験を活かし、ワークショップ、パネルディスカッションで提案のあった事柄を取り入れながら、南相木村とシナノユキマスの知名度向上を図る。

水産試験場佐久支場及び南佐久南部漁協組合とともにシナノユキマスを活用した立岩湖の魚場利用活性化について協議しており、シナノユキマスが県内外に広く認知されることを目指す。

#### 【選定のポイント】

3年間の事業実施で、矢口氏と信頼関係が構築でき、釣りキチ三平を活用した立岩湖とシナノユキマスの知名度が向上し、村の新しい観光資源として定着し始めている。

団体名	南相木村	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0267-78-2121	事業費	3,725,494円
	南相木村総務課	支援金額	2,582,000円

## 「上諏訪温泉朝市」実施事業

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪湖周辺では、モーニングタイム（朝起きてからチェックアウトまで）の楽しみが少なく、結果として他の観光地への移動を早め、滞在時間の短縮につながる恐れがあった。一方、団塊の世代や女性を中心に、健康への関心や地産地消による安心・安全な農産物等への需要が高まっており、新たな地域資源としての活用が期待されていた。

これらの背景をベースに、平成24年度から民間と行政の連携により「上諏訪温泉朝市」を開催したところ、多くの観光客、市民に楽しんでいただけた。

平成27年度は「地域に愛される朝市」を目指し、出店者と地域住民との交流の促進や県外向け情報発信に重点を置いて事業を行うこととした。

### 事業内容

#### ○農産物の対面販売

上諏訪温泉・諏訪湖エリアにおける歴史・文化の発信拠点として著名な施設である片倉館において、諏訪広域で収穫された新鮮な農産物、名産品の対面販売を行った。

（7月19日～11月1日の毎週日曜日及び8月12、13日、9月23日の合計16回実施）

#### ○併催イベントの実施

オープニングイベントの他、しあわせ信州観光キャンペーンPRイベントを共催し、観光客へ信州のPRを行った。

また、平成27年度は初の試みとして「銀座NAGANO」でのPR販売を行った。



【上諏訪温泉朝市の光景】

### 事業効果

○地元住民への定着が進み、常連のお客が増加したこともあり、来場者は平均374名（前年358名）と前年を上回ることができた。また、近隣宿泊施設の協力もあり、浴衣姿の観光客の来場も多く見られ、諏訪湖周辺での滞在を楽しんでいただいた。

○出店者数は平均20.3店（前年21店）となったが、安心・安全な農産物等を販売するために努力・協力することにより、質の高い朝市を維持することができた。

○終了時期を延ばしたため、りんご等果実類が店頭に並び、県外からの観光客の満足度向上に繋がった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○農産物の安全を証するものとして、栽培履歴の提出を出店者に依頼し、来場者が閲覧できるようにした。  
○出店料を通年出店と単日出店の2区分に統一し、開催時間も通年統一させた。これは出店者のみでなく、来場者にも概ね好評であった。

○諏訪東京理科大学によるアンケート分析に加え、新たな試みとして、諏訪実業高校や地元の小学校の児童生徒による販売体験を行い、地域内でのつながりをより重視した朝市と位置付けた。しあわせ信州観光キャンペーンPRイベントや銀座NAGANOでのPRイベントでは、それらの学校と協力したことで、より高い成果が発揮できた。

○今後は出店者主体の運営体制に移行し、朝市のさらなる定着を図ってまいりたい。

#### 【選定のポイント】

新たな観光資源の提供による宿泊客の満足度向上に加え、地元住民の買物・交流の場としても定着してきており、今後の事業の継続、拡大が期待される。

団体名	上諏訪温泉朝市の会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	諏訪観光協会（諏訪湖温泉旅館組合）	事業費	583,038円
電話	0266-52-7155	支援金額	362,000円



## 木曾路をつなぐ氷雪の灯祭り事業

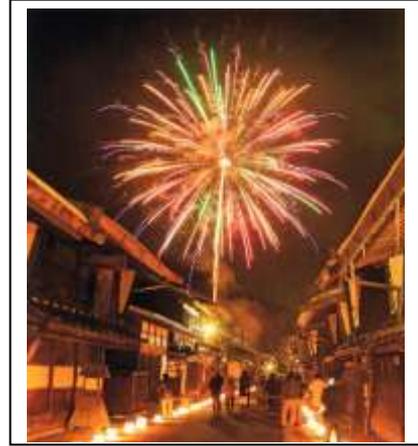
### 取組に至る背景・事業の目的

平成 26 年度の木曾地域の観光客は、7 月に発生した南木曾町の土石流災害、9 月に発生した御嶽山噴火災害などの影響により、大幅に減少した。それに伴い、施設の廃業、休業も相次ぐなど、重要な基幹産業である観光分野において、かつてないほど重大な影響を受けた。

各種イベントや行事等も相次いで中止され、平成 26 年度の木曾路氷雪の灯祭りも開催が危ぶまれたが、スキー場の業績悪化も懸念される中、元々イベントの少ない冬期間において、「つながろう木曾」のスローガンのもと、少しでも地域の活力低下に歯止めをかけ、復興に向けて一体感を持っていこうと例年通り開催したところである。

### 事業内容

- 中山道の宿場を含む木曾路全体の 16 か所において、1 月下旬から 2 月中旬にかけて、アイスクャンドル、雪像等の飾り付けによるイベントを開催。
- 木曾路全体での取組みであることを表現するための総合点灯式を開催。
- 各地区の観光客誘致を図るためのフォトコンテストを開催。
- 木曾観光連盟HP上でフォトコンテスト優秀作品を掲出。



【フォトコンテスト最優秀作品】

### 事業効果

- 総合点灯式をはじめとし、木曾路の住民が一体となって同じ事業を実施することで、木曾路は一つであることを再認識し、一体感が高まった。
- 寒さが厳しい木曾路にあって、閉じこもりがちな住民が、自らイベントに参加することにより、冬の楽しみが生まれた。
- これまで木曾路内においては、冬期間の観光資源が乏しかったが、回を重ねて冬の木曾路の一大イベントとなった。
- フォトコンテストの実施をはじめとして、木曾路以外への広報活動により、冬期間の観光客の誘致が図れた。なお、平成 27 年度はこのイベントに合わせて、旅行会社のモニターツアー、ブロガーツアーも実施した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 元気づくり支援金の対象事業としては、平成 27 年度が最終となるが、既に冬の木曾路のイベントとしてすっかり定着し、平成 28 年度以降も自主財源により継続実施していくことが、実行委員会において確認されたところである。
- 今後も開催方法や内容などを工夫しながら、より発展させて続けるべく努力していく。

#### 【選定のポイント】

木曾路全体の冬期開催イベントとして定着し、木曾の魅力発信・地元活性化・観光客誘客に貢献した。今後も継続して開催していくことで、観光客の誘客や木曾路の魅力発信効果が期待できる。

団体名 木曾路氷雪の灯祭り実行委員会 連絡先 0264-23-1122 (木曾観光連盟内)	事業タイプ ソフト事業 事業費 2, 135, 732円 支援金額 1, 601, 000円	
---	--	--

## 小谷村ヒルクライムプロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

観光客数が漸減している小谷村では、特にグリーンシーズンの観光誘客および宿泊につなげるための取組が急務であった。昨今の北アルプス山麓エリアでの自転車人気の高まりに着目し、グリーンシーズンの観光誘客につなげ、地域の活性化、魅力づくりを進めるために、白馬連峰と戸隠妙高連山の間位置する小谷村の谷地形を活かしたサイクリングコースの整備を行った。

### 事業内容

- 自転車愛好者を中心とした組織づくり
- 梅池自然園及び小谷温泉の2コースに標識・サイクルピットを設置し、自転車コースを整備
- 次年度に整備予定の6コースを含めた全コースのマップ・PRチラシの作成
- コースお披露目会試走会イベントの開催
- 利用者数のモニタリング方法の検討



【お披露目試走会イベントの様子】

### 事業効果

- 白馬山麓エリアで自転車イベントや大会、インバウンド向けのガイドツアーによる誘客が活発化している流れの中で、「ヒルクライム」というジャンルに特化したことにより、小谷村の持つ個性を磨き、発信することができた。
- 新たな観光の切り口として話題となり、スキー、登山など従来の観光客と別の層にアプローチすることができたほか、近隣市町村や都市部からの訪問者や取材が増えた。
- コース整備をするにあたり、地域の合意形成を進める中で、自転車愛好家やガイドはもとより、かつて自転車に乗っていた人、自転車店を営んでいた人などを発掘することができ、協力を得ることができたほか、今後のコースの利用促進にもつなげることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 標識設置には、想定以上に多数の許認可が必要で、取得に時間がかかったが、関係各所に足を運び、様々な利害関係者との調整が必要となったことで、逆に、近隣市町村との連携を深めることができた。
- 次年度はコースを6本増設し、村内全域にコースを整備するとともに、メカトラブルなどの緊急対応や休憩施設（サイクルステーション）などの受入体制を整える。また、新たに初心者やファミリー層にも楽しめるように、電動アシスト自転車のレンタル事業を開始する。

#### 【選定のポイント】

標高差のある地域の谷地形を活かした「ヒルクライム」に特化した取組は新たな切り口であり、地域の新しい魅力づくりにつながり、グリーンシーズンの観光誘客の促進と地域の活性化につながっていくことが期待できる。

団体名	小谷村	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	特産推進室 0261-82-2589	事業費	1,759,595円
		支援金額	1,198,000円

## ようこそ大町温泉郷プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

葛温泉から引湯され「大町温泉郷」として始まったのが昭和 40 年である。北アルプスの麓、森に囲まれた温泉街として半世紀が経ち、宿泊者は昭和のピーク時よりは減少し、厳しい状況が続いているが、現在でも年間約 30 万人を受け入れている。大町市の地域経済の一翼を担っているこの大町温泉郷の 50 周年の節目を後世に残すとともに、おもてなしの向上を図るため、若手経営者が中心となり、「元気ある温泉郷」としての第一歩となるようなイベント等を実施した。

### 事業内容

- 森の散策プロジェクト
  - ・投光器による「あかり」の演出
  - ・おさんぽマップやインバウンド向け案内看板の設置
  - ・各宿に散歩用提灯を配置
  - ・真夏のナイトハイク・かんじきハイクを実施
  - ・間伐材で作成した「森のベンチ」を設置
- oishi プロジェクト
  - ・北アルプス山麓の恵みを「おいしい」というキーワード・ロゴを活用して、お客様に伝えていく。
  - ・今年度は、各部屋の飲み水蛇口付近に、水がおいしいことを説明しているプレートが多言語表記した。



【かんじきハイク】

### 事業効果

- お客様目線で考えることを第一に、若手経営者自らが温泉郷を歩き、考えたことから、新たな視点で、現在の大町温泉郷エリア内の問題点や改善点、工夫可能なところが見えてきた。これらの取組は、世代交代のきっかけにもつながった。
- 夜のイベント時の演出として活用した提灯は、投光器による「あかり」の演出とともに、夜の大町温泉郷の新たな楽しみを宿泊者らに提供し、おもてなしの向上にもつながった。
- 真夏のナイトハイクには 153 名、かんじきハイクは 72 名が参加し、宿泊者らにも好評であったほか、平成 27 年の宿泊者数は、前年比 112.3%となった。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- イベント実施の際には、スタッフによるアンケートを行い、次年度へ向けた Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）といった PDCA サイクルが実施できるよう、定期的に会議を行った。
- oishi プロジェクトは、おいしい水だけでなく、共通 PR できる食材を活用したロゴを 5 種類制作して PR を始めており、チラシやメニューなどに幅広く活用し、大町温泉郷が発信できる体制を整えていく。

#### 【選定のポイント】

若手経営者が中心となった取組は、世代交代のきっかけにつながったほか、大町のおいしい水の PR など引き続き大町温泉郷の付加価値向上を図るための取組が、自立的に展開されることが期待できる。

団体名	大町温泉郷 50 周年事業実行委員会 (大町市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	大町温泉郷観光協会 0261-22-3038	事業費	1,807,159 円
		支援金額	1,355,000 円

## 地元産そば需要拡大プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

観光客や地元の皆さんに木曽産のおいしいそばを継続的に提供するため、そば生産者とそば店等が連携した組織を平成26年度新たに設立した。1年目は御嶽山の噴火による影響で、観光客が多く訪れる秋の新そばの時期のPR活動が制限されるなど、十分な活動ができなかった。課題の多かった1年目を踏まえ、2年目の活動としては、第1にそば店が求める風味の豊かな木曽産そばの生産を行い、第2に新そばの時期等に各種イベントと連携したPR活動の再構築を図る。

### 事業内容

- 木曽産そばの生産性及び品質向上対策
  - ・ 播種前の栽培講習会の開催
  - ・ 先進地視察研修会の実施（2回）
- 木曽産そばのPR活動
  - ・ 新規加盟店を対象としたヒノキの銘板作製と贈呈式の開催
  - ・ PRリーフレットの作成と配布
  - ・ 木曽のそばのノボリ旗の配布とすんきそばのPR活動
  - ・ 銀座NAGANOを活用した木曽のそばのPR活動



【銀座NAGANOでのPR活動】

### 事業効果

項目	平成26年度	平成27年度
協議会加盟そば店の増加	29店舗	36店舗
木曽産玄そばの高品質化	3等以上 53% 規格外 47%	2等以上 99% 規格外 1%
木曽地域のそば栽培面積	181ha	193ha
木曽地域のそば生産量	82t	89t

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域のブランドとして定着してきた「木曽産そば」をより多くの人々に周知し、さらに発展させるために、生産者、製麺加工業者、そば店との一体的な取り組みを強化しつつ、広域的なマーケティング活動を展開することで、県内外からの木曽地域への誘客促進を図っていく必要がある。
- そばの産地として発展していくためには、生産者の収益性向上に結びつく継続的な栽培・収穫調製技術支援が欠かせないことから、先進地視察等さらなる技術向上対策に力を入れるとともに、国の補助制度を活用できるように、検査等級の向上と集落営農組織への誘導など生産基盤の強化に取り組んでいく必要がある。

#### 【選定のポイント】

そばの栽培から、そば店での木曽産そばのPRまで一連の活動の中で、木曽産そばを取り扱う店も増加し、そば粉の品質も向上している。「木曽のそば」の需要に応じた生産のために、栽培面積の増加、収量増加を期待したい。

団体名	木曽のそば推進協議会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0264-57-2515 (長野県商工会連合会木曽支部)	事業費	636,540円
		支援金額	509,000円

## 中野市の農産物・情報発信拠点「Na-ハーベスト」運営事業 (Na-ハーベスト有限責任事業組合)

### 取組に至る背景・事業の目的

平成 20 年より中野市に委嘱され「中野市農業観光応援隊」として都市部での中野市のPRや農産物の消費拡大に努め、24 年度に神奈川県藤沢市にアンテナショップ「Na-ハーベスト」を開店し、中野市の農産物の販売等を行ってきた。

27 年度には中野市の農家 8 軒、藤沢市の協力者 2 名で出資した有限責任事業組合を立上げ、農産物を販売するほか、都市と農村に暮らす人のコミュニケーションを図る情報発信の拠点とし、温かみのあるアンテナショップを目指している。

### 事業内容

1. 夏場の農産物の劣化を防ぐために冷蔵庫、ショーケース付き冷蔵庫を設置した。
2. 農産物販売をはじめ、贈答品、宅配、ケータリング、イベント出店のほか田植えや収穫祭りなどへ参加した。
3. 桃、りんご、新そばなどの販売に加え、おやき作りや味噌作り講習会の開催等、時宜をとらえて藤沢市へ出向き消費者と交流した。
4. 各事業開催にあたりチラシを作成し、手渡しで配布したほか、フェイスブックなど SNS による発信に力を入れた。
5. 藤沢市に 1 軒家を借り、食に関するワークショップ等を開催した。



【 Na-ハーベスト店内 】

### 事業効果

- 冷蔵庫を入れたことにより、商品の劣化を防ぎ店への信頼を保つことができた。
- 消費者との交流を重ねることにより中野市及び北信州を身近に感じてもらえる人が増えた。また、チラシを手渡し配布するほかフェイスブックなど SNS を積極的に利用し集客につなげた。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

組合を設立したため、更なる団結と責任感が生まれた。月 1 回のペースで藤沢市のメンバーが中野市に足を運び農産物の生産現場等取材し、ワークショップの開催などを通じ中野市を印象付ける取組をした。輸送費、農産物発送に係る手続き等のスリム化、移動販売手段の確保などの課題があるが、都市と農村をつなぐ様々なイベント等を企画し、中野市のブランド化及び北信州への誘客を図りたい。

今後は農産物だけでなく惣菜・菓子の製造販売拠点や、中野市での交流受け入れ拠点づくりにも取り組んでいきたい。

#### 【選定のポイント】

アンテナショップにおける農産物や加工品の販売に留まらず、中野市からはそば打ちや味噌作りのため出向き、藤沢市からは田植えなどの農業体験に親子連れで参加するなど、都市と農村の交流に積極的に取り組んでいる。また、古民家を借りて食に関する勉強会等を行うなど、様々な視点で消費者と農家をつないでいることは高く評価できる。

団体名	Na-ハーベスト有限責任事業組合	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0269-26-7444	事業費	1, 701, 314円
ホームページ	<a href="http://www.na-harvest.com/">http://www.na-harvest.com/</a>	支援金額	1, 154, 000円

## 松炭の生産（刀鍛冶使用）、里山整備

### 取組に至る背景・事業の目的

青木村は8割が森林であり、個人所有の山林も手入れがなされず荒廃林が目立っている。常日頃より森林整備の必要性を感じており、木材を有効資源として活用できたらと思っていたところ、長野県無形文化財の刀鍛冶である宮入法廣氏より東日本大震災を契機に松炭の入手が困難になっているとの事情をお聞きした。そこで、山の手入れで伐採した松材を刀を打つために使用する「黒炭」として活用できたらと考え、地域有志住民で山林の手入れと炭焼きを志した。

### 事業内容

現在、松材は建材としての活用は皆無であることから、炭窯で黒炭として加工することで有効利用を図った。また、檜等の雑木は炭を焼くための燃料として活用した。

生産規模：内径2.4m、高さ1.2mの炭窯で平成27年度は約3tの松炭を生産。（1窯約250kg×12回）

参加者：地域住民を中心に12名

整備機器：薪割機、木材運搬車、チェーンソー



【材料の薪割り】

松炭の生産は、炭窯で1週間ほど火を燃やし、その後空気を遮断して消火、冷却後に窯から取り出す。全工程はおよそ2週間である。

里山整備は主に秋から冬にかけて実施し、70本以上を間伐した。また、倒木被害等の危険がある山林の伐倒材、森林組合が里山整備で搬出した松材等も活用した。

なお、各作業にあたっては、炭焼講習会や山林作業講習等を併せて実施した。

### 事業効果

松炭を約3t生産し、宮入氏をはじめとする全国の4名の刀鍛冶に納入することができた。刀匠の方々からは、良い炭であるとの評価をいただいた。

里山整備の実施により、獣害被害が減少したとの地元農家からの声もあった。また、民家への倒木被害が出ていた山林の伐採を行ったことから、山主や住民から感謝をいただいた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

倒木被害や獣害を未然に防ぐためにも、里山整備を継続して行っていく必要がある。

現在は1つの炭窯で生産しているため、1月当たり約500kgの生産が限界である。この生産量では4名分が手一杯であり、他の刀匠からも松炭の納品依頼があるため、炭窯をもう1基建造することを検討している。

今後、山、森林、木材等の自然を活用した子供たちの体験学習の場としても活用できるようにしていきたいと思う。

#### 【選定のポイント】

松炭の需要に着目し、里山の間伐材等を品質の良い松炭として加工、販売することで、商品価値を創出した。今後、里山整備と松炭の商品化の更なる推進が期待される。

団体名	滝山炭焼きの会（青木村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	青木村奈良本 764-11	事業費	4,365,786円
		支援金額	2,941,000円

## 森・まち・人をつなぐイナカチプロジェクト事業

### 取組に至る背景・事業の目的

伊那谷の林業は、森林所有者の高齢化や従事者不足等に悩まされており、間伐もされずに放置状態となっている里山も見受けられる。このため、森林整備技術の向上と人材の育成に向けたシステム作りが求められている。一方、中心商店街においては、空き店舗の増加や後継者不足など多くの課題が存在している。多種多様な業種・団体が関わり、新たな発想に基づくまちづくりが必要となっている。

そこで、里山と市街地が近い距離にある伊那の特性を活かし、里山の資源である間伐材をまちなかで活用し、森林保全と商店街の活性化を図った。

### 事業内容

- 間伐材の枝葉の蒸留水・エッセンシャルオイルといった里山資源の新たな活用の提案、全国規模の展示会における伊那産の木製品の展示やPR冊子の配布などの魅力発信事業を行なった。
- 森林整備技術講習会や木製品づくりを体験するイベントを開催し、間伐材利用に関心をもつ人材の育成を図った。
- 朝マルシェ等で間伐材を活用した木のブロック KEES (キーズ) や木製遊具を使った遊びを提案し、次世代を担う子どもたちに木の魅力を体験する「木育ワークショップ」を実施した。
- 商店街に間伐材製品を陳列する「木のショールーム」を設置し、地元の木の魅力を感じられる空間を創造することにより誘客を図った。



【KEESの森で1日イベント】

### 事業効果

- 里山の間伐材を使うことによる里山森林保全と商店街の活性化とを融合させ、地域の資源である豊かな自然環境に気づき、地域の財産としての新たな価値を生み出す取組となった。
- 心豊かなライフスタイルの実現に共感を持った多くの地域住民等が参画することにより、価値観を共有することができた。また、全国的な展示会等に出展し、県内外へ伊那の魅力のPRと伊那らしい価値の提案を行い伊那のファンづくりができた。
- 地元の高校生・信大生をはじめ次世代を担う若者や、多種多様な業種の人々が広く関わることにより、地元愛の醸成・明るく活気あふれる街づくりと、地域循環型の新たなビジネスモデルの創出に向けた取組となった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地域の資源を新たな発想でビジネスにつなげ、地元の間伐材を活用した様々な木製品をプロデュースしていく。また木製品の全国への流通を展開するなど森から仕事をつくり、地域に関わるすべての人々に笑顔の循環を生み、持続可能な地域づくりを目指す。

#### 【選定のポイント】

里山の資源を活かし里山と街とをつなげるため、森林整備の講習会や木工体験講座、朝マルシェでの木育ワークショップを開催し多くの参加を得た。また、県内外の展示会等への出展などを通じて、伊那谷の新たな魅力の発信を行うなど、里山資源の活用・森林整備の促進及び商店街の活性化に寄与した。

団体名 伊那まちの再生やるじゃん会 連絡先 プロジェクトリーダー 平賀裕子 0265-96-0438 <a href="https://www.facebook.com/keesproject">https://www.facebook.com/keesproject</a>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 2px 5px;">ソフト事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">事業費</td> <td style="padding: 2px 5px;">2, 844, 683円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">支援金額</td> <td style="padding: 2px 5px;">2, 131, 000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト事業	事業費	2, 844, 683円	支援金額	2, 131, 000円
事業タイプ	ソフト事業						
事業費	2, 844, 683円						
支援金額	2, 131, 000円						

## 上田産「ブランド繭」の育成のための養蚕振興

### 取組に至る背景・事業の目的

かつては養蚕業で栄えた蚕都上田であるが、現在、上田市の養蚕農家は皆無となっており、全国的にも知名度の高い上田紬は、海外の輸入生糸で織られている状況である。地域の伝統文化を継承・発展させるためには、上田での養蚕による「ブランド繭」を育成し、ブランド力のある純上田産の絹製品を製作していく必要がある。

### 事業内容

平成 25 年度事業では、遊休荒廃農地を桑園として整備するとともに蚕室、蚕具等の整備を行い、平成 26 年度事業では、特殊生糸繰糸機を整備し、緯糸として用いる紬糸を安定的に製造する体制を整えた。

平成 27 年度事業においては、一貫生産体制を更に進めるために、「撚糸機」を整備し、生糸を複数本撚り合わせて実用的な糸とする撚糸を行う体制が整った。このことにより、様々な特徴と風合いを持つ上田紬を製作することができるようになった。



【撚糸機による生糸の撚糸】

### 事業効果

平成 27 年度の事業では、春蚕期と秋蚕期の 2 回で約 8 万頭の蚕を飼育し、約 70kg の生繭から約 15kg の純上田産生糸を採取することができた。

この生糸から手織機により「新繭・上田縞」の着尺 (きもの) 3 反を製作するとともに、動力機による上田紬 5 反の製作に取り組んだ。(平成 28 年 3 月現在)

また、桑の植栽、繰糸作業、機織り等の各工程を障害福祉サービス事業所の就労移行支援・就労継続支援 B 型施設「和裁舎」と連携しながら、福祉事業の就労支援活動の場とすることで、障がい者等の雇用創出につなげることができた。

3 年間の取組みにより、ブランド繭の育成から反物の製造まで一貫した純上田産絹製品の生産体制を整えることができた。



【手織機新作きもの】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「日本の絹」は染付き、つや、しなやかさ等に対する評価が高く、今後のニーズが期待される。

今後、更に純上田産絹製品の一貫した生産体制を推進し、安定的・継続的に地場産業の育成に取り組むとともに、上田市から全国へ、将来的には海外へ向けて発信していきたい。

また、上田の養蚕文化の発信拠点として周囲の景観も含めた整備を推進し、上田市の新たな観光スポットとして発信していきたい。

#### 【選定のポイント】

純上田産絹製品の生産体制を整備し、純上田産の「新繭・上田紬」の反物を製作することができた。今後、純上田産絹製品のブランド力向上と商品化の推進が期待される。

団体名	特定非営利活動法人 和遊学舎 (上田市)	事業タイプ	ハード事業
連絡先	上田市小牧 1206-4 TEL 0268-26-8833	事業費	3, 240, 000 円
		支援金額	2, 160, 000 円

## 諏訪圏移住交流推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

人口減少社会を迎え、移住促進に関する地域間競争が激化する中で、他県や他地域との違いを積極的にアピールするためには、諏訪圏内の市町村の区域を越えた密接な関係を構築する必要があった。

そこで平成 25 年度に長野県諏訪地方事務所、諏訪 6 市町村、宅建協会、商工会議所・商工会、移住者交流会、建設業協会などのメンバーで組織する「諏訪圏移住交流推進事業連絡会」を発足し、諏訪地域一体となった移住促進事業を開始した。

平成 27 年度はさらに発展させ、移住希望者の様々な生活スタイルの要望に応えるため、多くの情報を共有し、円滑な情報提供や各種相談への対応を実現することにより、地域を元気にする移住者を多数呼び込むことを目指すこととした。

### 事業内容

#### ○情報発信事業

- ・諏訪 6 市町村合同移住情報誌・ポータルサイト (信州で探して諏訪で暮らす) のリニューアル
- ・プロモーションビデオ (パワーポイント) の作成
- ・ふるさと回帰支援センターへの登録、バナー広告
- ・PR 用トートバックの作成・配布

#### ○セミナー・体験ツアー事業

- ・諏訪圏合同移住セミナーの開催
- ・諏訪地域物件見学ツアー&交流会の開催
- ・ふるさと回帰フェア 2015 への参加
- ・楽園信州移住セミナー (県主催) への参加
- ・第 2 回 3 県 (山梨県・長野県・静岡県) 合同移住相談会&セミナーへの参加



【諏訪地域物件見学ツアー：山麓コース】

### 事業効果

- 諏訪 6 市町村合同移住ポータルサイト (信州で探して諏訪で暮らす) の閲覧数を昨年度より伸ばすことができ、情報発信事業の充実が図られた。
- セミナー等での相談対応者数は 219 人で昨年度の 58 人を大きく上回るとともに、目標値の 100 人を達成でき、より多くの方に諏訪地域の魅力を発信することができた。
- 新たに試みた物件見学ツアーでは、40 人の参加があり、約 8 割の方から「満足」という回答を頂いた。諏訪地域での生活を具体的に想像する良い機会となった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今年度実施した物件見学ツアー等で「満足」に至っていない方のアンケートを分析し、来年度の各事業に反映させていきたい。
- 事業を広げすぎたことにより、きめ細かいフォローができなかったことを踏まえ、来年度はよりターゲット・事業を絞って、より高い効果の期待できる事業を実施していきたい。

#### 【選定のポイント】

諏訪圏の魅力を広く発信し、移住希望者の関心を高めることで、圏域への移住促進が期待される。

団体名 諏訪圏移住交流推進事業連絡会	事業タイプ ソフト
連絡先 0266-57-0502	事業費 2,650,610円
ホームページ <a href="http://www.suwa-life.jp/">http://www.suwa-life.jp/</a>	支援金額 2,120,000円
メールアドレス <a href="mailto:info@suwa-life.jp">info@suwa-life.jp</a>	

## サインで発信！まちなかコーンシェルジュ事業

### 取組に至る背景・事業の目的

池田町の商業・サービス業は、個人消費の低迷などにより、売上の減少や店舗の縮小、閉鎖など厳しい状況が続いている。工業・建設業についても、受注は持ち直し傾向にあるものの、受注単価の低下や人材不足等により利益が確保できない状況が続いている。そのような経済状況の中、業種を問わず、各事業所の自慢の商品やサービスをPRし、各事業所と町の魅力を発信するため、「店・商品・サービス・観光」を視覚で訴える「統一サイン（看板）」を設置した。

### 事業内容

- 事業所への誘客と観光案内等の情報発信ツールとして統一サイン（看板）を40か所に設置
- 七色大カエデ（10月～11月）の時期にはマグネット式の看板を貼り付け、観光案内としても活用



【統一サイン（看板）のデザイン】

### 事業効果

- 継続事業2年目であり、昨年度の取組が町全体に波及した。業種にとらわれず町内事業者が一体となった取組となり、町全体に統一感を創造することができた。
- 統一サインを設置したことにより、事業所の場所や商品・サービスをPRすることができた。
  - ・ 5店舗抽出によるアンケート結果
  - 来店者数 平成28年2月 前年対比3%増
  - 売上 平成28年2月 前年対比2%増



【作成した看板を前に集合写真】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今後は、統一サインを活用したイベントや事業を検討し、統一サインを有効に活用していく。
- 事業所の商品やサービスの魅力づくりと、事業所自体の基礎体力づくりを並行して実施し、来店されたお客様が事業所のファン、リピーターになるよう事業を実施していく。

#### 【選定のポイント】

商工業者一体となった取組は、町全体の一体感の醸成が図られたとともに、七色大カエデの観光PRなど、今後も地域住民を巻きこんだ一体的な取組に発展していくことが期待できる。

団体名	池田町商工会（池田町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-62-5085	事業費	1,092,528円
	info@ikedas-ci.jp	支援金額	819,000円

## 田中園茶店復活事業

### 取組に至る背景・事業の目的

千曲市稲荷山地区は重要伝統的建造物群保存地区に選定された。しかしながら、町は空き店舗が目立ち活力が低下している。そこで、町の活力を高めるため、空き店舗となっている歴史ある建物を、地域住民の協働により改修し、伝統食や地元農産物を販売する拠点とするとともに、観光客に稲荷山地区のまち歩き案内などのおもてなしを行う。

### 事業内容

空き店舗となっていた田中園茶店を住民参加により改修し、歴史を伝える写真や日常品を展示するなど、伝統料理や農産物を販売する拠点として整備した。

改修した店舗では、おやき、いなり寿司、地元農産物の販売を開始した。また、長野大学の学生がゼミ活動の一環として、千曲市の特産品である杏を使ったおやきの開発・販売も行った。

稲荷山の歴史、現在の地図などを掲載したパンフレットも作成し、まち歩きイベント等に活用している。



【改修した店舗内で活動する長野大学生】

### 事業効果

稲荷山商店街が重要伝統的建造物群保存地区に選定された時期にあわせて、地域の歴史ある建物を改修したことで、注目された。

地域住民が中心となって、観光客に伝統食や地元農産物を販売したり、まち案内をしたりするなどおもてなしをすることで町に活気が出始めた。

また、学生が関わることで、会のメンバーにとって刺激となったほか、報道機関も注目し、多くのテレビ取材があったほか、雑誌にも紹介され、知名度が上がってきている。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

来店者が増えているだけでなく、建物の視察や電話での問い合わせが多くなってきており、知名度が上がってきている。今後も継続していくことにより、商家で栄えた稲荷山の活気を少しでも取り戻したい。

また、田中園茶店とその他の観光客が立ち寄れる場所、見てみたい場所を結ぶルートやイベントを考えて魅力的なまちにしていきたい。

#### 【選定のポイント】

観光拠点が整備され、地域の魅力向上につながり観光誘客が図られた。また、長野大学の学生が市の特産品である杏を使って開発したおやきを販売し、事業に関わるなど、住民協働の推進、事業の広がりが見られた。

団体名	特定非営利活動法人稲荷山蔵の会 (千曲市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	026-272-1069	事業費	4,979,900円
		支援金額	2,936,000円

## 佐久の風土を生かした自給暦の進化発展・普及活動

### 取組に至る背景・事業の目的

「佐久の風土や歳時」「食と農」「健康と生きがい」等相互のつながりや、自給の本来的価値（豊かな暮らしの宝庫）等を学習・発掘して「見える化」し、冬野菜、ずらし蒔き等で一年を通して旬の食文化・農を楽しむ実践的な学習交流テキスト（自給暦）を作成するとともに、定期的な学習交流会の開催を通じて、佐久地域に広く啓発普及する。また都会の定年退職者などの農への参加・移住促進につなげる。

### 事業内容

#### ①自給暦の制作、販売について

「佐久の自給暦」の内容を充実させ、本編と資料編セットで550部作成。公的施設等へは無償で配付し、他は販売した。

#### ②学習交流会

「佐久の自給暦」を活用して内容を理解し、研究しあい、実践レベルを高めるため、毎月第2土曜日の午後に学習交流会を開催した。

#### ③講演会

自給暦の内容を深めるのに必要不可欠なテーマとして「本当の豊かさ」と「月暦、甦るいのち」を取り上げ、寛次郎先生と志賀勝先生の講演会を開催した。

第1回 平成28年1月9日、第2回 平成28年2月13日

場所：佐久情報センター 時間：午後1時～4時 総参加者95名

#### ④銀座NAGANOでの普及イベント

自給菜園ができる田舎生活（移住）を希望する人を対象にセミナーを開いて農のある暮らしの豊かさをアピールし移住等促進に役立てた。

#### ⑤ホームページの改定について

主に県外の訪問者の増加を図るため、ホームページを改定した。



【学習交流会の様子】

### 事業効果

①自給暦については内容の充実が評価され、またマスコミ関係への積極的なアピールが功を奏し新聞社、ケーブルテレビ、ラジオ、インターネットなどで取り上げられ、当初目標をはるかに超える356部の販売実績を達成した。

②学習交流会は新しい参加者も目立ち、月平均38名の参加を得た。

③講演会は予想を超える参加（163名）があり、本事業の理念への関心の高さがうかがえた。

④銀座NAGANOでの普及イベントには14名の参加があった。数名の参加者からはこのセミナーを通して本格的な移住に踏み切る可能性が高まったとの感想をいただいた。

⑤ホームページの改定を行った結果、ページへの訪問者の増加がみられ、問い合わせも来ている。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

マスコミを上手く利用できたことで、反響が大きく、当初のねらい・数値とも達成ができた。今後は内容の充実を検討し、参加者の増加や次の発展的展開を探っていく。

#### 【選定のポイント】

地域住民や県外者からの問い合わせも多く、地域の良さの再発見が進んでおり、かつ移住を検討する際の判断材料となる可能性がある。

団体名 千石の杜	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 090-3064-3297 (荻原 武治)	事業費	1, 273, 959円
ホームページ	支援金額	746, 000円
http://www.s-hidaka.co.jp/top/sengoku-nagano/sengoku-top.html		

## 海野宿にぎわいづくり事業

### 取組に至る背景・事業の目的

海野宿は北国街道の宿場の町並みが現在まで保存されており、昭和 62 年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。町並みを保存するために、各家の補修や道路・水路改修が実施され、今日まで景観が維持されてきた。しかし、海野宿は観光客を迎えるおもてなしの意識や、次世代を担う若者層の景観保存に対する意識があまり高くなく、近年空き家も増えてきていることから、今後、海野宿の景観をどのように保存していくのかということが気がかりであった。

海野宿の景観を次世代へつないでいくためには、人と人の交流が感じられる地域づくりが必要であり、地域への愛着や誇りを高め、若者層をはじめとした地域住民が景観の保存に参画してくれるような取り組みが必要であると考えた。

### 事業内容

海野宿には「海野格子」と呼ばれる格子戸の家々が続いており、地域の雛飾りをこの格子越しに展示することで、来宿者と地域住民が早春の海野宿をともに楽しむことができるイベントを開催した。また、「海野宿の保存」をテーマにした講演会やワークショップを開催することで、地域住民の景観保存に対する意識を高めるとともに、住民の様々な意見を「海野宿の将来ビジョン」としてまとめた。

#### ■海野宿ひな祭り（平成 28 年 2 月 27 日（土）～3 月 13 日（日））

海野宿の 32 軒に協力をいただき、海野格子越しに江戸から平成の雛人形を飾り付けた。

地元の子どもの手を手を借りながら「稲の花」100 本を作成し、海野宿全世帯に飾り付けを行うなど、早春の海野宿を地域住民も楽しみながら、来宿者へのおもてなしを行うことができた。

お祭り期間中に 2 日間行った歓迎イベントでは、1,800 人分の甘酒やあられをふるまい、地元の子供や来宿した子供が参加して、折紙の雛人形で流し雛を行った。また、夜には街道に灯籠を並べ、一夜限りのライトアップを行った。

#### ■海野宿の保存をテーマにした講演会の開催及びビジョン作成（平成 27 年 6 月 27 日（土））

講師：NPO 法人「夢空間松代のまちと心を育てる会」香山篤美氏

演題：「歴史的文化遺産を活用したまちづくり」

参加者：重要伝統的建造物群保存地区住民 47 名参加

ワークショップ開催：平成 27 年 7 月 23 日 21 名参加

地域での話し合い：3 回開催

ビジョン作成：ワークショップ等での意見を将来ビジョン「海野宿にあったらいいな」としてまとめた。



【海野格子越しの雛飾り】

### 事業効果

ひな祭り・講演会等は実行委員に応募があった地域の若者と一緒に準備を行い、幅広い年代で取組んだ事業となった。また、今後の海野宿の保存について、住民同士の話し合いがなく今に至っていたが、初めて話し合いをする機会をつくることができ、課題を明確にするるとともに共通の問題意識を持つことができた。（2 月～3 月に海野宿を訪れた観光客数）平成 27 年 前年比 124%・平成 28 年 前年比 188%

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後は地域ばかりでなく、ひな祭りイベントを広くツアールート等に組み込んでもらえるように取り組みたい。今後も地域住民を中心として一緒に活動してくれる人を増やすことで、飾る雛人形を増やし、おもてなしイベントを充実させ、年中行事として毎年開催する海野宿の一大イベントとしたい。

また、ビジョンを実現するための取組を推進し、2025 年の開宿 400 年を目指して、海野宿を中心に地域を盛り上げるとともに、海野宿の保存に取り組みたい。

#### 【選定のポイント】

海野宿ひな祭りに地域全体で取り組み、来宿者へのおもてなしや海野宿の保存・継承の機運を高めるとともに、住民同士が話し合う場をつくり、海野宿の将来像をビジョンとしてまとめた。

団体名	海野宿保存会（東御市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	東御市本海野 1098（海野宿歴史民族資料館）	事業費	903,159 円
		支援金額	626,000 円

## 地域住民による御柱祭イベント事業

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪大社下社春宮、下社秋宮が鎮座する下諏訪町では、平成 27 年の御柱祭開催をきっかけに、御柱祭を含めた祭の伝統と文化を伝承するとともに地域のみなさんに認識いただき、地域住民や来訪者を迎える場所として、「おんばしら館よいさ」の建設が予定されていた。

そこで、地域のみなさんが、御柱祭やお舟祭り等、「祭り」を熱く語れる場所として、また、地域の誰もが集まることができる憩いの場として活用を図るため、建設予定地で、地域の方と一緒に御柱祭イベントを実施し、御柱祭やお祭り広場を地域の方々に知ってもらい、親しみやすく、より愛着をもっていただけるような機会を提供することとした。

### 事業内容

#### ○イベントの実施

実施日：平成 27 年 5 月 30 日（土）

- ① 模擬御柱の皮むき
- ② 曳き綱の製作体験
- ③ 長持ちの実演、かつぎ体験
- ④ 木遣り衆による木遣り体験
- ⑤ おんべ作り体験
- ⑥ 長持ちの組み立て（後日）

地元住民や祭り関係団体が協力し一つ一つ丁寧に実際の工程（作業内容）で実施。



【イベントの様子（模擬御柱の皮むき）】

### 事業効果

○地域の方が主体的にイベントや制作に関わった。また、完成物が展示されることで、施設自体に愛着を持ち、広く認知してもらうことができた。イベントや制作を通じて、地域や団体に連携が生まれ、古くから若者への御柱祭の技術伝承の機会となった。

○子どもや地域の方、観光客が御柱祭本番の勇壮で華やかな場面だけではなく、本来の御柱祭に関わる柱や綱、木遣り、長持ちなど、その準備には文化があることや、長年受け継がれてきた技術と伝統の大切さを知るイベントとなった。

参加団体数：延べ 8 団体

参加者数：地域住民 約 700 人

団体関係者 約 320 人

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○地域の方々に協力いただきイベントが開催できた。

○今後、おんばしら館よいさに愛着を持つ地域の方が、おんばしら館を核とした春宮周辺のまちあるきを勧めることで、春宮周辺の活性化につなげていきたい。あわせて、御柱祭を基軸として、地域の方が自らのお祭り文化に誇りを持つことで、祭文化の伝承に活かしていきたい。

#### 【選定のポイント】

イベントを通じ地域住民が施設への愛着や御柱祭への誇りを持ち、地域の活性化、祭文化の幅広い伝承が期待される。

団体名	下諏訪観光協会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-26-2102	事業費	2, 130, 289円
ホームページ	<a href="http://shimosuwaonsen.jp/">http://shimosuwaonsen.jp/</a>	支援金額	1, 593, 000円
メールアドレス	<a href="mailto:kkyoukai@town.shimosuwa.lg.jp">kkyoukai@town.shimosuwa.lg.jp</a>		

## 地域住民と協働による「信州諏訪ご当地映画」制作事業

### 取組に至る背景・事業の目的

長野県諏訪地域（長野県）出身の芸能人が中心となり、諏訪地域の住民も参加する長野県PRと復興支援（木曾地域、小谷村）を目的としたエンターテインメント「タロット探偵 ボブ西田」を制作した。

映画中で諏訪地域等の観光スポットや食・文化などに触れながら、諏訪地域の住民もできるだけエキストラ出演（参加）する映画とし、長野県諏訪地域の活性化と全国ユーザーに向けた情報発信を行った。

また、撮影スケジュール中に地域の方が参加できるワークショップを開催し、プロの役者や映像監督による演技についての講演や指導を行った。

映画制作の完了後、出演芸能人による舞台挨拶を含めた試写会等を開催し、地域を盛り上げるとともに、口コミやネットなどのPRにより県外からの誘客を図った。

### 事業内容

#### ○映像制作について

- ・映画制作： タイトル：タロット探偵ボブ西田
- ・制作期間：平成27年6月～平成28年2月
- ・場所：諏訪地域、王滝村、小谷村
- ・キャスト：高山猛久（諏訪市）、川村ゆきえ、  
渋谷譲二（諏訪市）、岩永洋昭、折井あゆみ（諏訪圏）、  
西沢仁太（上田市）、Gendy（下諏訪町）、マンモウ飯田、ほか
- ・エキストラ：諏訪地域の方々
- ・制作スタッフ：監督含め常勤スタッフ13名ほか

#### ○映画発信方法について

- ・長野県内の映画館にて舞台挨拶をからめた上映実施  
  - <2月27日(土)>岡谷スカラ座 200席  
    - ／長野グランドシネマズ 100席
  - <5月21日(土)>飯田センゲキシネマズ 80席
  - <9月4日(日)>東京 渋谷アップリンク 120席
- ・映画祭 招待作品に抜擢 舞台挨拶をからめた上映実施  
  - <9月25日(日)>第19回蓼科高原映画祭
  - <11月23日(水/祝)>横浜 第2回ご当地映画祭
- ・地域住民参加のワークショップとオーディション  
  - <平成27年8月29日(土)>ワークショップ50名 オーディション21名



【長野県先行上映 舞台挨拶の様子】



【地域住民参加シーン撮影の様子】

### 事業効果

○県内民放テレビ局等での特集（テレビ信州「ゆうがたGet!」、長野朝日放送「ザ・駅前テレビ」、長野放送「みんなのニュース」、LCV「BON!アラモード」等）、県内新聞各紙での大きい取り扱い（信濃毎日新聞、長野日報、市民新聞、中日新聞、スポニチ等）により、県内でのPRにつながった。

○口コミやネットによる拡散から、県外からの誘客につなげることができた。

○東京で行った上映についても全ての回で満席になり、また、県内外の映画祭から出展依頼をいただくなど、長期にわたり、長野県の魅力を発信につなげている。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○芸能関係への予算交渉と調整、制作から公開までのタイトなスケジュールが非常に難しく大変であった。

○上記以外にも、県外上映（東京都/神奈川県）を予定しており、メーカーとビデオ（DVD）化の調整も行っている。

#### 【選定のポイント】

諏訪地域の観光スポットや食・文化等、映画内で多くの素材に注目が集まることで、地域への愛着の高まりや、誘客の促進が期待される。

団体名 信州諏訪ご当地映画製作委員会	事業タイプ	ソフト事業
HP <a href="https://shinshu-eiga.themedia.jp/">https://shinshu-eiga.themedia.jp/</a>	事業費	4,318,212円
メールアドレス shinshu.eiga@gmail.com	支援金額	3,000,000円

## 成婚キャンプ in やすおか！事業

### 取組に至る背景・事業の目的

泰阜村の人口は2000年（平成12年）には2,237人だったが、2015年（平成27年）1月時点で1,765人まで減少し、高齢化率も37.5%に達する等、過疎の進行が著しい状況にある。

その原因の一つとして、村内出身の若者が都市部へ流出することがあり、一人でも多くの若年層の村内居住者を増やし、地域活性化につなげる取組が喫緊の課題となっている。

そこで、泰阜村社会福祉協議会では、結婚相談所（現：成婚リンクやすおか）を新たに設け、婚活セミナーや個別カウンセリング、各種イベントを実施することとした。

今回、その一環として、村内の若者に「出会いの場」を提供し、最終的に「結婚」につなげるための婚活イベントを実施する。

### 事業内容

○婚活イベント「いなかコン」の実施

- ・泰阜村在住の独身男性10名と県内外から募集した女性10名で田舎体験をテーマに1泊2日の出会いの場を演出。
- ・男性参加者には、事前におもてなし等の研修会や当日のリハーサルを行い、マッチングへ向けて支援した。
- ・当日は、万古溪谷でのシャワーウォーキングや古民家での生活体験、けもかわプロジェクトによる革細工体験等、泰阜村ならではのイベントを企画し、参加者へ泰阜村の魅力を伝える機会とした。



【いなかコン（自己紹介の様子）】

#### 【主なスケジュール】

- |                |            |
|----------------|------------|
| ・平成27年7～8月     | 参加者募集      |
| ・平成27年8月22日    | 男性参加者リハーサル |
| ・平成27年9月8日     | 男性参加者講習会   |
| ・平成27年9月12～13日 | 「いなかコン」当日  |

### 事業効果

- ・イベントの実施により、4組の男女のマッチングが成功した。
- ・OL向けフリーペーパーに広告掲載を行い、定員10名に対し、14名の女性から応募があった。
- ・事前に、男性参加者にリハーサルと研修を行った事により、女性へのおもてなしやエスコートがスムーズに出来た。
- ・今回、マッチングに至らなかった男性からは、スキル向上に加え、婚活イベントの継続的な希望などの要望をいただいた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

本事業により、マッチングした4組に関しては、本人達の希望に沿って今後もフォローを行い、結婚へつなげて行きたい。なお、平成28年9月に1組成婚、その他、成婚を見据えた交際継続中のカップルもいる。

今後も、村内男性と、村外女性との出会いを継続的に行えるような環境作りを行っていきたい。

#### 【選定のポイント】

男女各10名の参加による婚活イベントを開催し、4組のマッチングができた。また、事業終了後も独自で婚活イベントを継続しており、今後の成婚も大いに期待できる。

団体名 泰阜村社会福祉協議会（泰阜村）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0260-26-2162	事業費	1,036,529円
ホームページ <a href="http://yasuokasyakyo.jp/">http://yasuokasyakyo.jp/</a>	支援金額	660,000円

## まちなかくらふと 木曾の手仕事市

### 取組に至る背景・事業の目的

木曾福島の街なかで手仕事市を開催することで、過疎化によりシャッター街になりつつある旧中山道周辺地域に人を運び、地元商店街の活性化を促す。さらに、クラフト好きな来場者をはじめ、全国の子どもから年配の方まで全ての人に木曾の良さを知っていただき、木曾の手仕事市へのリピーターの増加、木曾地域への移住者増加をめざして、木曾独特の手仕事市を開催する。

### 事業内容

- 開催日 平成 27 年 8 月 22 日 (土) ～23 日 (日)
- 場 所 木曾町福島 旧中山道周辺地域
- 出展者 クラフト作家 85 団体  
食品店 4 団体  
周辺企業や学校によるパネル展 等
- その他 メンパ弁当コンテストの開催  
クラフト作家との交流会の開催  
出展者からお客さんへのポストカード送付



【手仕事市当日の様子】

### 事業効果

- 地元住民、商店街とのつながりアップ  
出展場所の提供、ポスター・チラシの設置、町内店舗の露天化など、住民の方、商店街から多くの協力を得られた。また、メンパ弁当コンテストには、多くの地元住民の方に参加してもらえた。
- クラフト作家とのつながりアップ  
準備から当日までの活動内容を SNS で随時発信したことで、出展者に「木曾の手仕事市」への興味をもってもらえた。また、交流会では地元食材を使った料理の提供、木曾節の披露も行い、木曾への愛着を持ってもらえた。
- 来場者と出展者のつながりアップ  
新聞やフリーペーパーだけでなく、クラフト雑誌に広告を掲載することで、来場者が増加し、出展者と来場者の交流を図ることができた。また、出展者からのポストカードをきっかけに来場した人もいた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 平成 27 年の出展者数が 89 団体と平成 26 年の 69 団体よりも 20 団体増え、クラフト作家内での認知度が高まってきた。次回にはさらなる出展者、来場者の増加が期待できる。
- 平成 26 年の御嶽山噴火の影響を受けて、観光客が減少しているが、平成 27 年の来場者数が約 7,000 人と平成 26 年度約 3,000 人よりも大きく増加し、地元商店街の賑わいや観光の活性化にもつなげることができた。

#### 【選定のポイント】

「檜のメンパ弁当コンテスト」や学校によるパネル展示等新たな取り組みにより出展者数、来場者数の増加が図られた。今後も木曾の魅力発信、観光客増加への効果が期待できる。

団体名	木曾の手仕事市実行委員会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0264-22-2766 (株)まちづくり木曾福島)	事業費	2, 5 1 6, 4 1 0 円
		支援金額	1, 1 7 5, 0 0 0 円